

独立行政法人国立青年の家に係る業務の実績に関する評価（平成13年度）

全体評価

評価項目	評価の結果
事業活動	<p>・主催事業について 各施設の実情や立地条件に基づき、ひきこもり青年を対象にした体験活動事業など青年の今日的課題に対応した事業や指導者研修を実施して成果を上げていますが、今後、13施設のネットワークを生かし、主催事業のビジョンを更に明確にして、体系的な事業の実施が期待されます。また、主催事業の公立施設等への普及については、報告書に加えて多様な普及方法について一層充実していくことが望まれます。</p> <p>・受入事業について 利用促進月間を設け精力的に企業や関係機関に出向いたり、出前講座を地域で開催するなどの積極的な広報活動を展開したことにより、利用者を増加させるとともに利用団体数を大幅に増加させ、閑散期にも一定の利用者を確保するなど高い成果を上げています。今後、きめ細やかに利用者のニーズを把握し、一層のサービス向上に努めることを期待します。</p>
業務運営	<p>・施設の連携体制について 全国に分散した13施設が統合した法人化1年目として、組織の基礎となる諸規則の制定や事務の一元化のために各種情報システムを新たに整備したことなどにより、連携体制の基礎を築いたことは高く評価できます。また、各施設の経験やノウハウを共有するためのネットワーク化が図られてきており、更に連携体制を強化することが期待されます。</p> <p>・職員の意識改革について 法人化後、職員の方々の意識が大幅に変わり、個々が変革の必要性を理解していることはとても素晴らしいことと評価します。</p>
1 財務	<p>・業務の効率化について 利用者サービスが低下しないように気をつけながら、契約方法の見直しや物品の調達方法を工夫して業務を効率的に進めており、特に利用者を大幅に増加させている中、光熱水料を前年度比約3%節減したことは高く評価できますが、外部委託については、法人としての委託の必要のある業務を明らかにし、計画的に実施することや、外部資金の受入れについても更に前向きに努力することを期待します。</p>
2 人事	<p>・人事管理について 所長を含め3名を民間から職員に採用したり、事業運営の核となる専門職員を公募するなど多様な人材を確保するために前向きな取り組みが見られました。今後、民間との人事交流やプロパー専門職員の養成について更に意欲的に取り組むことを期待します。</p>
3 その他	<p>・施設整備について 限られた予算の中で効率的な施設・設備の整備に努めていますが、今後、施設の老朽化や時代のニーズに対応するための施設整備を、特に自然環境に配慮しながら進めることが望まれるとともに、身障者等の利用への配慮や分煙等利用者の健康に留意した施設運営について一層努力することを期待します。</p>

事業活動全体、業務運営（財務、人事等）など法人の業務全体にわたる横断的な観点から、項目別評価の結果を踏まえつつ、法人の業務実績について記述式により評価する。

評価項目	評価の結果
総評	<p>現在、青年の価値観が多様であるように、青年教育に対する課題もまた多様であり、それに伴い事業活動の方向性を定めることが大変難しいことではありますが、国立青年の家はこれまで各施設がそれぞれ独自に青年教育の課題を真摯に模索してきたところです。</p> <p>法人化後も理事長のリーダーシップのもと、これまでの努力を継続するとともに職員研修を積極的に行い、情報の共有化・職員の意識改革にも積極的に取り組み、法人化1年目として順調に滑り出したことは高く評価することができます。</p> <p>今日、ひきこもりや凶悪犯罪の増加など青少年をめぐる様々な問題が発生し、深刻な社会問題となっており、こうした問題の背景には様々な要因が考えられますが、思いやりの心や社会性など、豊かな人間性が青少年に育まれていないことが背景にあると指摘されています。</p> <p>こうしたことから、現代の青少年をとりまく様々な諸課題を解決するに当たり、青年教育の中核である国立青年の家の重要性はますます高まっており、今後、国立青年の家は、次代を担う青年の健全な育成を図るといった役割を果たしていくため、13施設のネットワークを生かし事業のビジョンを更に明確にしてその教育機能を如何なく発揮するよう期待するところであります。</p>

項目別評価及び上記の横断的な評価を総合し、法人の活動全体についての総評を記述する。

項目別評価

業務運営の効率化に関する事項

中期計画の各項目	評価項目		評価に係る実績	評価	
	指標	評価基準 A : B : C		ABC 評定	留意事項
業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置					必要に応じて評定を出すに至った背景や理由、改善すべき事項、目標設定の妥当性等を記述
1 全国に分散した施設を機能的に統合して連携体制を整備し、事務の集中管理による簡素化・合理化を図る。	施設の連携体制の状況	・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。		A	<ul style="list-style-type: none"> ・全国に分散した13施設が統合した法人化1年目として、組織の基礎となる諸規則の制定や事務の一元化のために各種情報システムを新たに構築したことなどにより、連携体制の基礎を整備したことは評価できます。 ・13施設が統合したメリットを発揮するため、連携体制を強化しつつ、組織の一元化に向けて更に努力することが望まれます。
	事務の集中管理による簡素化、合理化状況		<ul style="list-style-type: none"> ・人事・会計事務及び利用統計の一元化と連携状況 ・事務の簡素化、合理化に向けての取組状況など (別添資料1のとおり)		
2 光熱水の節減、外部委託、情報化、調達方法、支払窓口の一本化等の見直しを進める。	業務の効率化状況	・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。		A	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者サービスが低下しないように気をつけながら、契約方法の見直しや物品の調達方法を工夫して業務を効率的に進めており、特に、稼働数を大幅に増加させている中、光熱水を前年度比約3%節減したことは高く評価できます。 ・外部委託については、法人としての委託の必要のある業務を明らかにし、計画的に実施していくことが望まれます。
	光熱水の節減状況		<ul style="list-style-type: none"> ・光熱水の節減実績 ・その他節減努力の実施状況 各種減免措置の活用状況 省エネ製品の調達状況 など (別添資料2のとおり)		
	光熱水の節減率 目標：1% (前年度光熱水料 - 当年度光熱水料) / 前年度光熱水料 注) 利用者数の増減を勘案する	1.5%以上 : 1.0%以上 : 1.0%未満 1.5%未満	3.09%		
	外部委託の見直し状況		<ul style="list-style-type: none"> ・外部委託すべきがどうかの業務の見直し状況 ・各施設の実情に即した外部委託への進捗状況 など (別添資料3のとおり)		
	事務の情報化の状況		<ul style="list-style-type: none"> ・事務効率の向上方策等の実績 文書処理・管理業務の情報化 ペーパーレス化の進捗状況 電算システムの改善状況 など (別添資料4のとおり)		
	物品の調達方法の改善状況 注) 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」への対応に配慮する		<ul style="list-style-type: none"> ・調達方法の改善実績 ・契約方法の改善状況 ・まとめ買いの進捗状況 など (別添資料5のとおり)		
1%の業務の効率化 目標：1% (運営費交付金予算額 ÷ 0.99 - 運営費交付金決算額) ÷ (運営費交付金予算額 ÷ 0.99) 注) 新規・拡充分を除く 注) 目的種立金への種立分を除く	1.5%以上 : 1.0%以上 : 1.0%未満 1.5%未満	1.10%	文部科学省独立行政法人評価委員会総会が示す統一的な考え方		

A : 中期計画を十分に履行し、中期目標に向かって着実に成果を上げている。

B : 中期計画をほぼ履行し、中期目標に向かって概ね成果を上げている。

C : 中期計画を十分には履行しておらず、中期目標達成のためには業務の改善が必要。

中期計画の各項目	評価項目			評価に係る実績	評 定	
	指 標	A	B		C	ABC 評 定
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置						必要に応じて評定を出さずに至った背景や理由、改善すべき事項、目標設定の妥当性等を記述
1 青年の団体宿泊訓練に関する事項 ・主催事業 主催事業を計画するに当たり、継続事業においては、前回の事業の成果を踏まえ、継続していく必要性や事業のねらいを明確にする、新規事業においては、地域の実情に照らし、現代的な課題とは何かについての確かな情報を収集、調査分析を行い、その展開方法について各分野の専門家の意見を取り入れるなど、もっとも成果が上がるような計画を策定する。また、計画策定に当たり、過去の同種の事業の参加人数や指導者の許容範囲を勘案しながら適正な事業規模とする。 事業終了後において、当初の目的が達成されたか、報告書を作成し、結果や評価等の調査研究を行う。 以上のことから中期目標期間中に、以下の主催事業を計画的に実施する。 (1)各施設の実情や立地条件等に基づいた、独自性を発揮した事業の企画、適切な目的・内容・方法・対象・時期などを踏まえた事業の実施、公立青年の家等に対する事業内容・運営手法などの成果の普及、事業評価に基づく課題の改善を促す。 また、野外活動、スポーツ活動、文化活動、伝統文化活動、ボランティア活動、国際交流活動など、適切な手法で事業の目的を達成するように促す。 なお、事業の効果より高めるために、施設設備、施設周辺の自然環境や社会環境、関係機関等との連携、地域の課題への対応にも留意する。 (2)平成14年度から実施の完全学校週5日制に対応するため、これまでの学校週5日制対応事業の成果をまとめ、平成14年度以降の学校週5日制対応事業について、その在り方を検討し、検討結果に沿って実施し、その成果を公立青年の家等に普及する。 (3)調査研究・開発体制を整え、新しい活動プログラムの開発・実施・普及計画を立て、新規プログラムを開発し、公立青年の家等に普及する。 (4)主催事業参加者から高い評価が得られるよう、各施設において事業の企画、参加者への対応等が適切に行われるよう促す。	主催事業の実施状況 ・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。				B ・各施設の実情や立地条件に基づき、ひきこもり青年を対象にした体験活動事業など青年の今日的課題に対応した事業などを実施して成果を上げていますが、今後、13施設が統合したメリットを生かし、国立青年の家として主催事業のビジョンを更に明確にして、体系的に事業を実施することが望まれます。 ・主催事業の公立施設等への普及については、報告書に加えて多様な普及方法について一層充実していくことが望まれます。	
	現代的課題、今日的な青年教育に関する事業への取組状況					・事業計画 ・事業実施実績 ・事業評価 ・事業参加者のアンケート結果 など (別添資料6のとおり)
	アンケート調査による参加者の満足度 目標：80%以上	90%以上	80%以上 90%未満	80%未満		95.4%
	学校週5日制対応事業についての取組状況					・事業計画 ・事業実施実績 ・事業評価 ・事業参加者のアンケート結果 など (別添資料7のとおり)
	アンケート調査による参加者の満足度 目標：80%以上	90%以上	80%以上 90%未満	80%未満		98.3%
プログラムの開発及び普及状況				・プログラム開発実績 ・公立青年の家への普及実績 ・利用団体への普及実績 ・開発体制の整備実績 など (別添資料8のとおり)		
事業成果及び調査研究の取りまとめ状況と関係機関への普及状況				・事業成果及び調査研究取りまとめ実績 ・事業成果の普及実績 ・調査研究の公表実績 など (別添資料9のとおり)		

中期計画の各項目	評価項目		評価基準			評価に係る実績	評 定	
	指 標	A	B	C	A B C 評 定		留 意 事 項	
2 青年の団体宿泊訓練のための利用に供するとともに、青年の団体宿泊訓練についての指導及び助言に関する事項 ・受入事業 (1)施設を、青年の健全育成を目的として学校、団体、グループ、企業などが実施する、青年及び青年教育に携わる指導者を対象にした団体宿泊訓練のための利用に供する。 (2)広報活動を積極的にを行い、これまで青少年教育施設を利用したことのない団体を受け入れる。 (3)公立施設では受入れが困難な大規模（200人超）利用・長期利用（5日以上）及び新規団体の利用などにも配慮しつつ、毎年度140万人程度の利用者を受け入れる。 (4)利用団体が利用目的を達成するために必要な指導・助言の在り方を検討し、事前の利用相談等において適切な指導・助言を行い、全利用団体の最低70%を超える利用団体が目的を達成するよう事業を行う。 (5)青年の家職員に対し、指導能力向上、企画能力向上、接遇の向上など、施設内外での研修機会を与える。 (6)利用団体の活動支援のための外部研修指導員、施設利用者に対して様々な援助を行うボランティアなどの確保及び資質・指導力向上のための研修機会を設け、利用団体のニーズに即した指導を行う。	受入事業の実施状況	・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。				・利用促進月間を設け精力的に企業や関係機関に出向いたり、出前講座を地域で開催するなどの積極的な広報活動を展開したことにより、稼動数を増加させるとともに、利用団体数を大幅に増加させ、閑散期にも一定の利用者を確保するなど高い成果を上げたことは評価できます。 ・利用者に対する一層のサービス向上を図るために、きめ細やかにニーズを把握することが望まれます。		
	年間の稼動数 目標：140万人程度	154万人以上	140万人以上 154万人未満	140万人未満	150.7万人 (別添資料10のとおり)			
	新規利用団体受入れに対する取組状況				・新規利用団体の利用実績 ・新規利用団体確保のための広報実績 など (別添資料10のとおり)			
	指導・助言に対する満足度 目標：70%以上	80%以上	70%以上 80%未満	70%未満	98.7% (別添資料11のとおり)			
	アンケート調査による利用者の満足度 目標：70%以上	80%以上	70%以上 80%未満	70%未満	99.2% (別添資料11のとおり)			
	利用者サービス向上のための職員に対する研修の計画的な実施状況				・研修実績 ・利用団体のアンケート結果 など (別添資料12のとおり)			
	利用団体の活動支援のための人材等の確保及び資質等向上のための研修実施状況				・人材確保への取組実績 ・研修の実施実績 ・利用団体のアンケート結果 など (別添資料12のとおり)			

A

中期計画の各項目	評価項目		評価基準			評価に係る実績	評 定		
	指 標		A	B	C		A B C 評 定	留 意 事 項	
3 青年の団体宿泊訓練に関し、青年教育指導者の研修に関する事項 ・主催事業 (1)特に専門性の高い、青年教育に携わる指導者の資質向上を目的とした、次のようなブロック規模・全国規模の研修事業を実施する。 ア 青年団体指導者、施設職員等を対象にした研修 イ ボランティア養成研修 ウ 外部研修指導員を対象にした研修 エ 指導者の企画力や専門性等を高める研修	青年教育指導者研修の実施状況		・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			・事業計画 ・事業実施実績 ・事業の評価 ・事業参加者のアンケート結果 など (別添資料13のとおり)	B	・全国規模、ブロック規模で野外教育や環境教育の企画等にかかわる専門的な指導者養成研修やボランティア養成研修などを実施して成果を上げていますが、今後13の施設のネットワークを生かし、青年教育指導者研修について体系的な研修事業の実施が望まれます。	
	青年団体指導者、施設職員等を対象にした研修実施状況								・事業計画 ・事業実施実績 ・事業の評価 ・事業参加者のアンケート結果 など (別添資料14のとおり)
	アンケート調査による参加者の満足度 目標：80%以上		90%以上	80%以上 90%未満	80%未満				
	ボランティア養成研修実施状況								・事業計画 ・事業実施実績 ・事業の評価 ・事業参加者のアンケート結果 など (別添資料14のとおり)
アンケート調査による参加者の満足度 目標：80%以上		90%以上	80%以上 90%未満	80%未満	98.3%				
4 前項の業務に附帯する計画 (1)施設・設備の充実 主催事業参加者や利用団体の意見やニーズを把握し、団体宿泊訓練が効果的に行われるような施設・設備の計画的充実に図る。 (2)広報活動の充実に図るための計画 刊行物等広報関係資料の配布など、事業の広報活動及び実施事業の成果の普及・啓発等を各施設の実状等を踏まえて効率的に行う。	附帯業務の実施状況		・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			附帯する事項であることから、主業務の各項目の評定に含める。 施設・設備の整備状況に含む。 主催事業の実施状況、受入れ事業の実施状況、青年教育指導者研修の実施状況に含む。			
	施設・設備の計画的充実にに関する取組状況						・施設・設備の整備計画 ・施設・設備の整備実績 など		
	広報活動の充実にに関する取組状況						・広報活動への取組実績 ・事業成果の普及・啓発実績 ・ホームページの充実状況 など		

中期計画の各項目	評価項目		評価基準			評価に係る実績	評 定	
	指 標		A	B	C		ABC 評 定	留 意 事 項
予算、収支計画及び資金計画								必要に応じて評価を出すに至った背景や理由、改善すべき事項、目標設定の妥当性等を記述
(1)期間全体に係る予算 (2)期間全体に係る収支計画 (3)期間全体に係る資金計画	収入の確保等の状況		・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。				B	・外部資金の受入れについて更に前向きに努力することが望まれます。
	自己収入の受入状況 目標：100%		110%以上	100%以上 110%未満	100%未満	100.5%		
	自己収入決算額 / 自己収入予算額							
	外部資金の受入状況					・受託事業等受入れ状況 など 受託収入 2,841,410 円		
短期借入金の限度額								必要に応じて評価を出すに至った背景や理由、改善すべき事項、目標設定の妥当性等を記述
1 短期借入金の限度額 7億円 2 想定される理由 運営費交付金の受け入れの遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借入することも想定される。	短期借入金の借入状況		・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。			・短期借入金の借入実績と効果 短期借入金の借入理由 など なし		
重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画								必要に応じて評価を出すに至った背景や理由、改善すべき事項、目標設定の妥当性等を記述
計画の予定なし	重要財産の処分等状況		・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。			・重要な財産の譲渡等の実績 など なし		
剰余金の使途								必要に応じて評価を出すに至った背景や理由、改善すべき事項、目標設定の妥当性等を記述
主催事業、受入事業の充実 必要な施設設備の充実	剰余金の使用等の状況		・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。			・剰余金による事業実施実績及び効果 剰余金による事業実施理由 など なし		

中期計画の各項目	評価項目		評価基準		評価に係る実績	評 定	
	指 標	A	B	C		A B C 評 定	留 意 事 項
その他主務省令で定める業務運営に関する事項							必要に応じて評価を出すに至った背景や理由、改善すべき事項、目標設定の妥当性等を記述
1 施設・設備に関する計画 (1) 研修・宿泊施設等の新設、改修、増設計画等 防災、研修の充実、快適な食・住環境の確保の観点から、必要な施設設備の新設、改修、増設等を計画的に進める。 (2) 高齢者及び身体障害者に配慮した施設整備の推進 「高齢者及び身体障害者等が円滑に利用できる特定建築の促進に関する法律」等の基準に従い、高齢者等が円滑に施設・設備を利用できるような配慮を行う。	施設・設備の整備状況				・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。	A	・限られた予算の中で効率的な施設・設備の整備に努めていますが、今後、施設の老朽化や時代のニーズに対応するための施設整備を自然環境に配慮しながら進めることが望まれます。 ・身障者等の施設の利用への配慮や分煙等利用者の健康に留意した施設運営について一層努力することが望まれます。
	防災、研修の充実、快適な食・住環境等の確保の観点に立った施設設備の整備状況				・施設設備の整備計画 ・防災、研修の充実、快適な食・住環境等の確保の観点に立った整備の実績 ・その他 施設に対するアンケート結果 など (別添資料15のとおり)		
	高齢者等に配慮した施設の整備状況				・施設設備の整備計画 ・高齢者及び身体障害者等に配慮した整備の実績 ・その他 施設に対するアンケート結果 など (別添資料16のとおり)		
2 人事に関する計画 (1) 方針 ア 人事サイクルを基本とした、実践的研修や専門的研修事業の活用による青年教育施設の専門家の計画的な養成を図る。 イ 関係機関との間で幅広く計画的な人事交流を行い、多様な人材を確保する。 ウ 人事管理については新情報ネットワークシステムにおいて管理する。 (2) 人員に関する指標 常勤職員について、その職員数の抑制を図る。	人事管理の状況				・法人による内部評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。	A	・所長を含め3名を民間から職員に採用したり、事業運営の核となる専門職員を公募するなど多様な人材を確保するために前向きな取り組みが見られます。 ・民間との人事交流やプロパー専門職員の養成について更に意欲的に取り組むことが望まれます。
					・職員に対する研修の実施実績 ・関係機関等との人事交流の実施実績 ・新情報ネットワークシステムの導入状況 ・常勤職員の数 など (別添資料17のとおり)		

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 施設の連携体制の状況

(1) 事務の集中管理による簡素化、合理化状況

人事・会計事務及び利用統計の一元化と進捗状況

ア 人事等

法人化に伴い、全国に分散した施設を機能的に統合するため、「独立行政法人国立青年の家の組織に関する規程」等38本の規則を定め、法人本部の下、各施設の連携体制を整備するとともに、事務処理の合理化を図った。

また、職員の昇任・昇格等を統一した基準の下、法人本部で決定する等、人事管理の一元化を図るとともに、従来各施設で行っていた給与計算をネットワークシステムにより本部で一括処理することにより業務の効率化を図った。

イ 会計

法人化に伴い、法人における正確かつ厳正な会計処理を実現するため、「独立行政法人国立青年の家会計規程」をはじめ、諸関係規則を整備した。また、本部と各施設との機能的統合を図るため、「独立行政法人国立青年の家における会計執行職員の指定等に関する要綱」により会計執行職員の指定と事務の範囲を明確にし、法人本部における会計支払い事務を一元化する体制を整備した。

併せて、法人本部と各施設間のネットワーク環境を整備し、新たに「独立行政法人国立青年の家会計規程」に則った、契約から支出、財務諸表まで作成する会計システム、固定資産の取得、移動、減価償却の算定までを管理する固定資産管理システムからなる、青年の家会計システムを構築した。

上記の規則の整備及びシステムの導入により、法人本部での支払い事務が一元化され、迅速かつ正確に処理することが可能となり、会計事務の簡

素化と効率化が図られた。

ウ 利用統計

法人化に伴い、利用統計のデータベースを構築し、利用統計業務の一元化を図った。

なお、法人化に伴い導入された電算システムは、構築されて間もないこともあり、現在のシステムの改善については充分とは言えないが、本年度は人事管理システムの給与の遡及計算機能の追加や電算処理能力の向上等の必要な改善を図った。

事務の簡素化、合理化に向けての取組状況

「独立行政法人国立青年の家の業務運営について（平成13年12月19日 理事長裁定）」に基づき、各施設に対して法人の業務運営の基本方針を示し、各施設が一体となった事業運営を展開できるようにすることにより、事務の合理化を図った。

また、グループウェアの導入により、本部と各施設との間のデータの送受信が可能となり、事務連絡を始めとする情報伝達を迅速かつ効率的に行っている。

さらに、全職員にパーソナルコンピュータを供与するとともにネットワーク化を進め、情報の共有化を始め、定型文書や諸様式の共通ファイル化を進めることにより、事務の情報化を図った。

別添資料 2

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 業務の効率化状況

(1) 光熱水料の節減状況

光熱水料の節減実績

平成13年度の光熱水料の実績額について前年度と比較すると約3%の節減を達成した。

【 光熱水料実績額 】

(単位：千円)

区 分	平成12年度	平成13年度	節 減 額
電気料	166,445	159,550	6,895
ガス料	2,714	3,220	506
水道料	39,289	41,029	1,740
燃 料	91,429	86,801	4,628
計	299,877	290,600	9,277

その他 ~節減努力の実施状況等~

光熱水料の節減対策としては、青少年教育施設としての役割を踏まえ、利用団体の学習活動や生活等に支障が生じないように、また、利用者サービスの低下を招くことがないように配慮しつつ以下の措置を講じた。

- ・ 施設内の巡回による点検
- ・ 利用団体に対する省エネルギーへの協力依頼
- ・ 状況に応じた電灯の点灯・消灯、空調機の運転

- ・ 冷暖房温度の設定の適正化
- ・ 契約電力の超過防止のための定期的な監視
- ・ 電気需要契約の変更による電気料金の抑制
- ・ 外灯の調光用安定器の設置
- ・ 人感センサーの設置
- ・ 省エネルギータイプ電気器具・O A 機器（照明器具、エアコン）の購入
- ・ 減免措置の活用

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 業務の効率化状況

(2) 外部委託の見直し状況

法人化に伴い、外部委託の実施に当たっては、各施設においてこれまで実施してきた業務については、経済性や効率化等の観点から引き続き外部委託を実施する必要性の見直しを行った。

現状では、主にボイラーの保守等の有資格者が行うことが法的に定められている業務等、職員では対応できない業務を外部委託している。

これらの業務委託、また、新規委託業務についても、経済性、利用者等のニーズや業務の必要性等を検討し、サービスの向上と業務の効率化の観点から、委託業務の内容等の見直しを図りつつ、外部委託を効率的に行う方向で検討している。

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

2. 業務の効率化状況

(3) 事務の情報化の状況

事務能率の向上方策等の実績

ア 文書処理・管理業務の情報化

独立行政法人国立青年の家のネットワーク環境は、アウトソーシングセンターに各種サーバーを設置しフレームリレー網を使って本部、各施設を結んでいる。このネットワークを利用して、人事給与、会計、固定資産管理システムが稼働している。この会計システムにより、会計支払い事務を法人本部で一元的に処理することが可能となり、法人全体としての支払い事務の軽減を図っている。

また、グループウェアも導入により、本部と各施設との間のデータの送受信が可能となり、事務連絡をはじめとする情報伝達を迅速かつ効率的に行なっている。

さらに、全職員にパーソナルコンピュータを供与するとともにネットワーク化を進め、情報の共有化を始め、定型文書や諸様式の共通ファイル化を進めることにより、事務の情報化を図った。

イ ペーパーレス化の進捗状況

法人本部と各施設との間及び外部との諸連絡や事務連絡に電子メールを積極的に活用することにより、ペーパーレス化を図った。また、ミスコピー用紙の再利用や、両面印刷、両面コピーを行うことにより、紙類の使用枚数の削減を図った。

ウ 電算システムの改善状況

法人化に伴い導入された各種電算システムについて、本年度は人事管理システムの給与の遡及計算機能の追加や支払額集計表などの検索機能の充実、電算処理能力の向上等の必要な改善を図った。

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 業務の効率化状況

(4) 物品の調達方法の改善状況

「独立行政法人国立青年の家契約事務取扱要領」を定め、効率的な物品調達等に努めた。例えば、従来の契約方法を見直し、業者間の競争により安価な調達に努めるとともに、恒常的に必要な物品は、適正な必要量を把握し、まとめて購入するように努めた。

また、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」(平成12年法律第100号)「環境物品等の調達の推進等に関する基本方針」(平成13年2月2日閣議決定)への対応として、独立行政法人国立青年の家「環境物品等の調達の推進を図るための方針」を策定し理事長名で各施設に通知するとともにホームページでこの方針を公表した。これに伴い、物品の調達に関しては、政府が示した基準に適合した以下のような物品を調達した。

【 調達物品例 】

- ・古紙配合率100%かつ白色度70%以下のコピー用紙を全て購入
- ・古紙配合率100%のトイレトペーパーを全て購入
- ・ハイブリッド自動車の購入
- ・事務用品、蛍光灯等についても判断基準に適合した物品を全て購入

(5) 1%の業務の効率化

以上の業務の効率化を図るための取組みにより、運営費交付金については、1.1%の業務の効率化を図った。

別添資料6

国民に対して提供するサービスその他の業務への質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 主催事業の実施状況

青年教育の中心的な拠点として、青年教育の現代的課題や今日的な青年教育の課題、それぞれの青年の家の立地条件や地域の課題等を踏まえ、青年に対し、先導的・広域的な事業を以下のとおり195事業実施した。

また、事業実施で得られた成果を調査研究、取りまとめを行い、公立青年の家等に普及することにより青年教育の振興を図ることを趣旨・目的とし事業に取り組んだ。

事業の広報としては、新聞・雑誌・テレビ・ラジオなどのマスメディアを有効的に活用することをはじめ、ホームページに事業開催案内ページの設置、メールマガジンの配布、ダイレクトメールの送付、開催要項等の印刷物を各県市町村教育委員会を通じ学校へ配布、リピータの口コミ、連携機関による広報等による事業への参加を促し、事業の存在や内容・趣旨等について広く一般に周知した。また、行った事業の内容・結果を新聞等に掲載したり、ホームページに掲載するなどし、事業の意義等を一般周知してもらう活動を行った。

事業区分	事業数			参加者数 (人)
	新規	継続	計	
施設の立地条件を生かした先導的な事業	5	16	21	1,657
広域的な事業	6	15	21	5,257
地域の中核施設としての事業	1	15	16	45,456
国の施策を具現化する事業	2	18	20	1,385
関係機関との連携事業	2	4	6	581
学校週5日制事業	7	11	18	1,507
新規プログラム開発・普及事業	11	11	22	1,847
調査研究事業	3	3	6	269
青年団体指導者、施設職員等を対象にした研修	3	37	40	1,697
ボランティア養成研修	7	18	25	1,192
合計	47	148	195	60,848

(1) 現代的課題、今日的な青年教育に関する事業への取り組み状況

現代的な課題に取り組んだ主な新規事業

ア. 現代的な課題について

独立行政法人国立青年の家においては、生涯学習審議会答申、中央教育審議会答申等を参考にし、全国13の施設の地域の実状を踏まえ、平成14年度から実施の学校週5日制に対しリーダーの資質向上、高等学校の総合的な学習の時間の在り方に関する研究協議、引きこもり青年や不登校の問題に対するプログラム開発、指導者の資質向上、ボランティアの資質向上や広域的なネットワーク化を図る事業をはじめ、施設の立地条件を生かした自然体験、環境教育のプログラムの充実、機会の提供などの事業を平成13年度新規事業として企画・実施した。

イ. 平成13年度実施計画・実績

施設名	事業名	対応課題	趣 旨	対 象	期日(期間)	参加人数 / 満足度	共 催
大 雪	高等学校・施設連携研究協議会【学校週5日制対応】	学校週5日制・「総合的な学習の時間」への対応	青年の家を活用した高等学校の総合的な学習の時間のあり方について研究協議を行う。	教育行政関係者 高等学校教育関係者	4月 1日 ～28日	- / -	
岩 手 山	カンガルーキャンプ【プログラム開発】	ひきこもり青年への対応	ひきこもりがちな青年が、自然体験やグループワークを通して、自主性、社会性を育み、心身ともに健康な生活ができるようなきっかけをつかむ。	ひきこもりがちな青年	9月17日 ～ 10月 1日	9人 / -	
岩 手 山 磐 梯	東北地区ユースボランティアのつどい【ボランティア養成】	ボランティア活動の推進	青少年教育施設ボランティアとしての知識・技能を修得するとともに、活動実践等について情報交換を行い、ボランティアとしての資質を高める。	東北地区青少年教育施設ボランティア	11月23日 ～25日	34人 / 100%	国立岩手山・磐梯青年の家 東北地区青年の家協議会、岩手県内集団宿泊教育施設連絡協議会
赤 城	海彦山彦交流のつどい～尾瀬エコツアー～【関係機関との連携事業】	環境教育・家庭教育支援の推進	家族を対象として、湿原植物の宝庫「尾瀬ヶ原」の自然散策をとおし、自然の美しさ、神秘性に感動する心や豊かな感性を養う。さらには、参加家族相互及び異世代間の交流を図る。	群馬県及び千葉県 の小学校5年生～ 中学生のいる家族	7月22日 ～24日	36人 / 100%	千葉県立大房岬少年自然の家
能 登	高校生ニューリーダーの集い～学校祭をプロデュースする～【学校週5日制対応】	学校週5日制対応事業の推進	各高校生徒会が抱える現状・諸問題を討議し、生徒会リーダーとしての資質や企画運営力を高める。	高等学校生徒会役員	6月 9日 ～10日	55人 / 90%	
乗 鞍	乗鞍アドベンチャーキャンプ【立地条件を生かした先導的な事業】	自然体験体験活動の推進	乗鞍岳の大自然の中で、登山・キャンプ・野外炊飯などの野外活動を通して、自然・仲間・自分との関わりを見つめ直し、たくましく生きる力を身につける。	青年	8月24日 ～28日	15人 / 100%	

施設名	事業名	対応課題	趣 旨	対 象	期日(期間)	参加人数 / 満足度	共 催
中 央	感性を育てる 日本文化セミナー 【プログラム開発】	文化活動の充実	伝統文化を体験的に学び、その良さを現代生活に見だし、国際社会の中で新たな日本文化の創造や日本人について考え、自己の生活を振り返り、感性豊かな人生観を構築するための機会とする。	15歳～30歳 (中学生を除く)	セミナー 1 9月22日 ～23日 セミナー 2 10月27日 ～28日 セミナー 3 11月24日 ～25日	10人 / 100% 6人 / 80% 10人 / 100%	
淡 路	うずしおキャンプ - ボランティアの 企画による - 【立地条件を生か した先導的な事業】	ボランティア 活動・自然体験 活動の推進	野外活動の企画・指導体験を通じ、施設ボランティアの育成を図るとともに参加者には野外活動の楽しさ及び自然に触れあう機会を提供する。	障害を持つ 小・中・高校生 及びその保護者	8月24日 ～26日	75人 / 100%	
江 田 島	外国の青年と 世界を語るつどい 【地域の中核施設 としての事業】	国際交流活動 の推進	日本の青年と外国人の青年が、国立江田島青年の家での生活を通して交流し、相互理解を図ることで、国際的な連帯意識、協調性を高める。	学生(高校生を除く) 働く青年等	11月 2日 ～ 4日	107人 / 97%	広島大学留学生センター
大 洲	教育相談研修会 【青年団体指導者、 施設職員を対象に した研修】	不登校児童・生徒 ひきこもり青年 への対応	心理療法の実習等をおとして、様々な要因から悩んでいる児童・生徒の青年の心理に、より効果的に近づく研修を行い、養護教諭の資質の向上を図る。	養護教諭	2月22日 ～23日	31人 / 100%	
能 登 阿 蘇 沖 縄	阿蘇・沖縄・能登 青年リーダー ふれあいキャンプ 【広域的な事業】	自然体験活動の 推進	沖縄の青い海と空の中で、自然体験活動を通して問題解決能力を身につけ、沖縄の自然や文化・歴史について理解するとともに、参加者相互の交流・交歓を深め、社会性を育む。	高校生以上	能 登 8月23日 ～27日 阿 蘇 8月22日 ～27日 沖 縄 8月24日 ～26日	9人 / 100% 25人 / 100% 51人 / 100%	国立能登青年の家 国立阿蘇青年の家 国立沖縄青年の家

【 】については年度計画の区分を示す。

年度計画の分類による事業

ア．施設の立地条件を生かした先導的な事業

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
大 雪	ゆーすびあ野外活動 フェスティバル	継 続	十勝岳連峰の登山を通して、登山の基本的な技術やマナーについて学び、自然の美しさや生命の尊さに触れながら登山の楽しさを味わう。	高校生 学生 一般	7月21日 ～22日	65人 / 100%	
	パノラミック大雪	継 続	大雪の美しく雄大な自然を舞台に、写真を通して表現力の向上を図りながら豊かな心を育む。	高校生 学生 一般	9月15日 ～16日	38人 / 100%	
	ベストスイミング in大雪 PART1、2	継 続	水泳の魅力や楽しさを味わいながら技術の向上を図るとともに、健康についての関心を高める機会とする。	高校生 大学生 一般	10月27日 ～28日 11月24日 ～25日	86人 / 100%	
	スノーフェスティバル in大雪	継 続	ウィンタースポーツの魅力や楽しさを味わい参加者相互の交流を図りながら、技術の習得及び技能の向上をめざす。	高校生以上一般	1月11日 ～14日	82人 / 100%	
岩 手 山	テンパークのつどい SIN・シン・しん	継 続	青年の家での生活・活動体験または青年の団体・グループ等の表現活動を通して、参加者相互の交流を図ると共に青年の家への理解を深める。	青年 親子等	10月20日 ～21日	367人 / 77%	
磐 梯	磐梯大自然塾 ～再発見 磐梯の自然、 自己の可能性～	継 続	男女が協力してアウトドアクッキングをすることで男女共同参画について考えてみる。カヌーや沢登りなどの野外活動を通し、美しい自然の中で友と語り、自分自身を見つめ直すきっかけを作る。	高校生以上の青年	8月10日 ～12日	21人 / 100%	
	気分爽快 ！磐梯山に挑戦！！	新 規	日本百名山の一つである磐梯山の登山を通じて、楽しく且つ安全な登山についての知識・技術を習得すると共に、共に助け合い、登山の成功を喜び合うことで、参加者同士の交流を図る。	青年等	8月24日 ～26日	40人 / 100%	
赤 城	あかぎダイナミック フィールドセミナー	継 続	地域の自然を活用した長期の野外活動を体験することで、自然からの恩恵に共感するとともに、美しいものや自然に感動する心など柔らかい感性を涵養し、あわせて、連帯感や危機管理意識・技術を身につける。	高校生～社会人	8月26日 ～30日	13人 / 100%	

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日(期間)	参加人数 / 満足度	共 催
能 登	チャレンジ! ヨットセーリング	継 続	能登の海に親しみながらヨットの基礎的知識・技能を学ぶとともに、マリンスポーツに積極的に参加しようとする意欲を高める。	小学5年生以上	7月14日 ～15日	29人 / 100%	
乗 鞍	雲表を歩く 北アルプス登山	継 続	北アルプスの登山を通して、夏山登山に必要な基礎的な知識・技術及び態度を学ぶと共に参加者相互の交流を深める。また北アルプスの自然や文化に接することにより、心と体のリフレッシュを図る。	青年	7月28日 ～31日	29人 / 100%	
	乗鞍アドベンチャー キャンプ	新 規	乗鞍岳の大自然の中で、登山・キャンプ・野外炊飯などの野外活動を通して、自然・仲間・自分との関わりを見つめ直し、たくましく生きる力を身につける。	青年	8月24日 ～28日	15人 / 100%	
淡 路	第6回うずしお カッターレース	継 続	国民の祝日「海の日」において、海洋活動であるカッターレースを通じて、海への理解を深めるとともに参加者相互の交流を図る。	青年	6月30日 ～ 7月1日	345人 / 90%	
	ユースキャンプ in淡路	継 続	長期にわたるキャンプを通じて、野外教育について理解を深めるとともに参加者相互の交流を図る。	野外教育に興味・関心のある大学生 ・社会人 教職を志す大学生 ・社会人	8月7日 ～13日	24人 / 100%	
	うずしおキャンプ	新 規	野外活動の企画・指導体験を通じ、施設ボランティアの育成を図るとともに参加者には野外活動の楽しさ及び自然に触れあう機会を提供する。	障害を持つ 小・中・高校生 及びその保護者	8月24日 ～26日	75人 / 100%	
大 洲	シーカヤック DE 宇和海	新 規	国民の祝日「海の日」を記念し、シーカヤックに関心をもつ仲間が宇和海でシーカヤックを楽しみながら、健康・体力の維持増進や自然の理解そして参加者相互の交流を図る。	高校生以上	7月20日 ～22日	28人 / 100%	
	ファンファンゴルフ	継 続	生涯スポーツの一つであるゴルフの楽しさ・素晴らしさを味わう機会を提供し、基本的技術やマナーの向上を図る。	初心者 始めようとする人	10月15日 ～11月26日 (毎週月曜日) 11月26日(木)	17人 / 100%	

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
阿 蘇	チャレンジ・ザ・ 生涯スポーツ （登山、ゴルフ、 乗馬、スキー塾）	継 続	登山、ゴルフ、乗馬、スキーに関する事業を通して、技術・マナー及びルールを習得するとともに、生涯スポーツとして楽しみ、健康・体力の維持増進を図る。	青年及び成年	9月22日～23日 10月27日～28日 10月28日～29日 2月15日～16日	128人 / 100%	
	安全登山教室	新 規	本年5月と6月に阿蘇山系で相次いで起こった中高年の登山事故をうけ、本格的な夏山シーズンを前に、登山事故を防止するための緊急プログラムとして実施する。	山を愛する中高年の方々	7月13日 ～14日	56人 / 100%	
沖 縄	アドベンチャー キャンプ	継 続	慶良間諸島の海を舞台に、自然体験活動を通して生きる力を育み問題解決能力の向上を図る。	高校生以上	7月20日 ～22日	51人 / 97%	
	わんぱくキャンプ	継 続	青年リーダー育成事業として青少年を対象としたキャンプを実施し、異年齢間の交流を深めるとともに、青年の自主性及びリーダー性を育成する。	高校生以上 小・中学生	6月9日 ～10日	91人 / 100%	沖縄タイムス社
	第28回無人島に 挑む全国青年 ふれあいキャンプ	継 続	慶良間諸島での自然体験や集団生活を通して、青年がもつ感性や好奇心を育むとともに、自主性及協調性、社会性等の対人関係能力の涵養を図る。	高校生以上	8月3日 ～9日	57人 / 100%	渡嘉敷島

イ. 広域的な事業

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
岩 手 山	高校生アスリート キャンプ	継 続	日本の伝統文化である空手道の精神を重んじ、競技力向上をめざすとともに高等学校空手道部のリーダーとしての資質を高める。	高等学校空手道 部員	5月 3日 ～ 5日	480人 / -	東北高等学校体育 連盟空手道専門部
	フォーラムニュー リーダー2001	継 続	高等学校における生徒会活動の運営方法に関する実践事例や意見の交換などを通して、生徒会リーダーとしての資質を高める。	高等学校生徒会 新役員	11月 7日 ～ 9日	225人 / 91%	
	ユースセミナー ノーマライゼーション	継 続	学校の教育活動の一環として青年の家の主催事業に参加し、ノーマライゼーション社会の実現に寄与しようとする意欲と態度を高める。	高校生	5月20日 6月21日 7月28日 8月 5日 8月19日	1,037人 / 94%	
赤 城	あかぎサイエンス セミナー	継 続	赤城の自然の中で、様々な科学実験に協同して挑戦させることにより、科学への関心、興味を高める。集団宿泊生活を通して、異なった地域、学年の高校生どうしの交流を図る。	高校生	8月 3日 ～ 6日	18人 / 100%	
	エコツアー尾瀬との 触れ合いを求めて (6回シリーズ)	継 続	湿原植物の宝庫、尾瀬ヶ原の自然を散策等をとおして体験し、自然からの恩恵に共感するとともに、美しいものや自然に感動する柔らかい感性を涵養し、特に環境保護の精神を培う。	高校生～社会人 放送大学生	6月3日～4日 6月17日～18日 7月15日～17日 7月22日～23日 9月16日～17日 9月23日～25日	182人 / 99%	放送大学
	日本の名山との 触れ合いを求めて ～苗場山編～ ～赤城山編～	継 続	苗場山登山、赤城山縦走をとおして、自然からの恩恵に共感するとともに美しいものに感動する柔らかい感性を養い、あわせて環境保全に係る知識・技術を習得し、環境保護の精神を培う。	高校生～社会人	9月21日 ～23日 10月 6日 ～ 8日	31人 / 100%	
能 登	能登、沖縄、阿蘇青年 ふれあいキャンプ	新 規	沖縄の青い海と空の中で、自然体験活動を通して問題解決能力を身につけ、沖縄の自然や文化・歴史について理解するとともに、参加者相互の交流・交歓を深め、社会性を育む。	高校生以上	8月23日 ～27日	9人 / 100%	国立阿蘇青年の家 国立沖縄青年の家

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
乗 鞍	のりくら高原グリーン フェスティバル	継 続	飛騨乗鞍高原にある国立乗鞍青年の家と飛騨高山スキー場を広く開放し、野外活動・スポーツ・文化等の活動を通して、親子や世代間・地域の交流を図り施設に対する理解を深める。	一般 家族 青年 少年	5月26日 ～27日	- / -	高山市・乗鞍高原 連絡協議会
	スキー&ボード 白銀のつどい	継 続	安全で正しいスキー・スノーボードの知識や技術を習得するとともに、それぞれの種目を体験し理解を図る。青年の家の生活体験や態度を学び、冬の大自然とのふれ合い、参加者相互の友情を深める。	青年 一般	1月24日 ～27日	234人 / 100%	
中 央	チャレンジ！ 3776m富士登山 （第43回）	継 続	富士登山をとおして、助け合いの精神を養い、達成感を味わい、連帯感を深める。また、富士山を題材に人と自然との共存のあり方を考え、環境保全に配慮した働き掛けのできる青年を育成する。	15歳～30歳 （中学生を除く） の健康で登山が可能な人	8月 2日 ～ 4日	41人 / 97%	放送大学
淡 路	学ぶ青年全国集会 2001 in淡路	新 規 （持ち回り）	全国の青年が集い、現代の青年に課せられている諸課題について語り合い、生き方を見つめ直す機会と交流の輪を広げる。またボランティアをキーワードとして自分と社会の関わり方を問い直す。	働く青年・学生、 青年教育行政担当者・施設職員	10月13日 ～15日	154人 / 92%	独立行政法人国立 青年の家 （社）全国青年の 家協議会（協賛）
	うずしお交遊塾 リーダー養成セミナー	新 規	子ども達の現状、うずしお交遊塾の意義などの共有化を通して、うずしお交遊塾のリ・ダ - の養成を図る。	社会人及び高校生	10月27日 ～28日	20人 / 85%	南淡町教育委員会 南淡町地域教育活 性化センタ -
	うずしお交遊塾 （通学合宿）	継 続	異年齢の子どもたちが共同生活を体験することにより、望ましい人間関係の育成や自主自立の精神を養う機会を提供する。	南淡町の 小・中学生	11月10日 ～18日	70人 / 93%	南淡町教育委員会 南淡町地域教育 活性化センター

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
三 瓶	SANbe Out Door Life 教室（春、秋、冬）	継 続	登山に対する安全で基本的な考えや技術を身につけ、登山を楽しみ自然を発見する喜びを味わうことをねらいとする。	青年 社会人	5月26日 ～27日 11月10日 ～11日 2月16日 ～17日	106人 / 100%	島根県山岳連盟
	剣道合同稽古 （高校生） （中学生・高校生）	継 続	厳寒の中、剣道の稽古を通じて心身を鍛練するとともに、参加者相互の交流を深め、自主的活動の意欲を高める。	高校生	12月22日 ～25日	209人 / 94%	島根県高等学校体育連盟剣道専門部
				高校生 中学生	1月 5日 ～ 7日	466人 / 94%	島根県中学校・高等学校体育連盟剣道専門部
	柔道合同稽古 （高校生） （中学生・高校生）	継 続	厳寒の中、柔道の稽古を通じて心身を鍛練するとともに、参加者相互の交流を深め、自主的活動の意欲を高める。	高校生	12月22日 ～24日	170人 / 94%	島根県高等学校体育連盟柔道専門部 島根県柔道連盟
				高校生 中学生	12月24日 ～26日	209人 / 94%	島根県中学校・高等学校体育連盟柔道専門部 島根県柔道連盟
	弓道合同稽古 （高校生）	継 続	弓道の稽古を通じて心身を鍛練するとともに、参加者相互の交流を深め、自主的活動の意欲を高める。	高校生	3月 9日 ～10日	111人 / 94%	島根県弓道連盟 島根県高等学校体育連盟弓道専門部
	全国青年の家協議会旗 争奪高校女子柔道大会 （全国大会）	継 続	柔道の稽古、試合をとおして、心身を鍛練するとともに、参加者の交流を深め、自主的活動の意欲を高める。	高校生女子 （全国選抜）	3月25日 ～28日	543人 / 100%	全国青年の家協議会旗争奪高校女子柔道大会実行委員会
江 田 島	文化伝承フォーラム	新 規	地域文化の伝承活動を行っている青年が集い、それぞれの活動について、発表したり、情報交換することで、活動の意欲を高め、その活動の振興に資する。	高校生 大学生 働く青年	2月 9日 ～11日	150人 / 92%	

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
阿 蘇	阿蘇、沖縄、能登青年 リーダーふれあい キャンプ	新 規	沖縄の青い海と空の中で、自然体験活動を通して問題解決能力を身につけ、沖縄の自然や文化・歴史について理解するとともに、参加者相互の交流・交歓を深め、社会性を育む。	高校生以上	8月22日 ～27日	25人 / 100%	国立能登青年の家 国立沖縄青年の家
沖 縄	沖縄、能登、阿蘇青年 ふれあいキャンプ	新 規	沖縄の青い海と空の中で、自然体験活動を通して問題解決能力を身につけ、沖縄の自然や文化・歴史について理解するとともに、参加者相互の交流・交歓を深め、社会性を育む。	高校生以上	8月24日 ～26日	51人 / 100%	国立能登青年の家 国立阿蘇青年の家

ウ．地域の中核施設としての事業

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
磐 梯	いなわしろ フェスティバル2001	継 続	青年の家の施設・設備を開放し、地域の教育・文化の振興を図り、さらに科学や環境に対する興味関心を高めるとともに、親子等触れ合いの場を提供し、心身ともに健全な青少年の育成を目指す。	一般	6月 9日 ～ 10日	- / -	猪苗代町
能 登	年賀状に挑戦	継 続	年賀状作りを通して日本の伝統文化にふれるとともに、豊かな感性を養う。	小学校3年～一般	11月23日 ～ 24日	94人 / 100%	
乗 鞍	乗鞍ジョイント セミナー (男女共同参画推進)	継 続	高山市の男女共同参画推進室と共に働く女性のための子育て支援について、若い青年を対象に家庭の役割や男女の望ましい在り方をさぐる。	青少年 一般 親子	11月 4日	33人 / 100%	高山市男女共同参画推進室 高山市生涯学習課
中 央	第4回 富士のさと 高校生弓道大会	継 続	弓道大会を通して、青少年の心身の育成と弓道の技能の向上を図るとともに、国立中央青年の家を青少年をはじめとする多くの人々に紹介する。	静岡県内の高等学校の生徒	10月 7日 ～ 8日	349人 / 83%	
	第5回 富士のさと 剣道大会	継 続	青少年の青年の家に対する認識を深めるとともに、武道を通じて青少年の健全育成に資する。	中学校剣道部員	3月 9日 ～ 10日	924人 / -	
	冬に鍛える 武道のつどい(剣道)	継 続	寒稽古を通じて心身を鍛え、剣道の技術を磨くとともに、異年齢の人間関係を深め、青年の心身の育成に資する。	高校生	12月24日 ～ 27日	401人 / 93%	
	冬に鍛える 武道のつどい(弓道)	継 続	寒稽古を通じて心身を鍛え、弓道の技術を磨くとともに、異年齢の人間関係を深め、青年の心身の育成に資する。	高校生	1月 4日 ～ 6日	367人 / 86%	
淡 路	淡路生涯学習 フォーラム	継 続	生涯学習についての理論や先行事例について学習する機会を提供する。	社会教育指導者 社会人	9月 5日	146人 / 63%	淡路教育事務連絡協議会、兵庫県教育委員会淡路教育事務所
	2001年あわじ 青年の家まつり	継 続	青年の家を開放し、野外活動、スポーツ活動、文化活動等とおして、参加者相互の交流や地域と青年の家との連携を深める。	制限なし	11月 3日 ～ 4日	- / -	2001年あわじ青年の家まつり実行委員会

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
三 瓶	地域を生かす 発信ネットワーク in三瓶（1、2）	継 続	地域の障害児とその保護者・指導者を対象として、自然体験活動等を行い、その中で自己をみつめ、自身の生活力を高める。又、保護者間、指導者間、及びその相互間のネットワーク作りの場とする。	障害を持つ児童・生徒と家族指導者	7月28日 ～29日 2月23日 ～24日	132人 / 98%	
	さんべ祭り	継 続	当青年の家を地域の人々に開放し、文化・芸術・体育・スポーツ活動等を行い、世代間交流や広域的な地域交流と地域活性化を図る。三瓶山の豊かな自然の中で、感性を磨き、伸ばす機会とする。	全世代	10月13日 ～14日	- / -	島根県立 三瓶自然館
江 田 島	フェスティバル江田島 2001	継 続	江田島町と近隣の市町の人々が、青年の家等の施設を利用して、教育・文化・スポーツ等の多彩な活動を展開し、もってふるさとの自然・文化産業への関心を高め、島おこし、まちづくりに資する。	江田島町及び近隣市町の住民	10月13日 ～14日	- / -	海上自衛隊第一術 科学校・呉地方都 市地域推進協議会
	外国の青年と 世界を語るつどい	新 規	日本の青年と外国人の青年が、国立江田島青年の家での生活を通して交流し、相互理解を図ることで、国際的な連帯意識、協調性を高める。	学生（高校生を除く） 働く青年等	11月 2日 ～ 4日	107人 / 97%	広島大学留学生セ ンター
阿 蘇	阿蘇ビジョン創造の フォーラム	継 続	阿蘇における自然環境の保全や文化の継承など、様々な問題の解決に向けて、共通のビジョンを探るとともに、阿蘇をフィールドとして活動している人々や団体のネットワークを構築する。	阿蘇を愛する人々	12月 1日 ～ 2日	- / -	
沖 縄	くじら海峡 セカンドスクール	継 続	学社融合事業の一環として、総合的な学習の時間の視点を踏まえ、離島の中学生を青年の家で学習させながら、日常の家庭生活とは異なる集団生活を通して、家庭や親の大切さを認識させる。	島尻地区の離島の 中学生	1月15日 ～18日	54人 / 100%	渡嘉敷村役場
	青年の家まつり	継 続	青年の家での様々な活動を通して、生涯学習の場としての青年の家の活動について理解を深めるとともに、地域との連携を深める。	一般	3月17日 ～23日	- / -	渡嘉敷村

エ．国の施策を具現化する事業

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
大 雪	ふれあいマイプラン	新 規	青年の家の施設・設備・教育機能を活用した独創的なプログラムの企画、運営を通して参加者相互の交流を図り、自主自律の心を育む機会とする。	高校生 学生 一般	8月14日 ～17日	16人 / 100%	
	施設ボランティア 活動推進事業 わんぱく サイエンス広場 わんぱく スイミング教室 わんぱく スキー教室	継 続	事業の企画から運営までを実際に行いながら施設ボランティアの活動を促進させるための資質向上を図る機会とする。	施設ボランティア の活動をしている 大学生 小学生5・6年生	10月6日 ～8日	88人 / 96%	
					11月10日 ～11日	69人 / 93%	
					1月17日 ～18日	85人 / 96%	
磐 梯	我らさわやか 体験倶楽部	継 続	磐梯高原のさわやかな自然の中で、農業体験を通して勤労の喜びを味わうとともに、参加者相互及び地域の人々とのふれあいを深める。	高校生以上の青年	9月22日 ～24日	16人 / 100%	
	通学キャンピin磐梯 ～磐梯の輪、猪苗代の 輪、友だちの輪～	継 続	異年齢集団での様々な活動や集団宿泊体験を通して、自立的な生活態度を育成する。併せて青年が施設ボランティアとして、子どもたちの活動を支援することにより、子どもの理解を深める機会とする。	猪苗代町内の小学 校に通う4・5・ 6年生 ボランティア	11月4日 ～9日	87人 / 98%	猪苗代町教育委員 会 猪苗代町校長会 PTA連絡協議会
能 登	チャレンジ！能登一周 ～能登半島300kmの旅	継 続	能登での長期体験活動を通して様々な活動にチャレンジし、参加者相互のコミュニケーションを深めながら、新たな自分を発見する機会とする。	小学校5年生 ～高校生	7月26日 ～ 8月2日	25人 / -	
	心も体もリフレッシュ	継 続	野外体験活動を通して、不登校児童・生徒の変容を見つめるとともに、保護者・学級担任・相談員の相互交流を図り、問題解決に向けての糸口を探る。	不登校児童・生徒 及びその保護者、 学級担任、相談員	8月9日 ～11日	43人 / 100%	
	サイエンス・ワールド ～音を科学する～	継 続	さまざまな観察や実験を通して、音の特徴を理解するとともに、科学の楽しさを体験し科学する意欲を高める。	青少年 教育関係者 一般	8月17日 ～19日	44人 / 100%	国立科学博物館

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
乗 鞍	第3回乗鞍環境 フォーラム	継 続	地球規模で環境問題が取り上げられる 昨今、生活者が環境との関わりを深く 持ち、環境に配慮した豊かな地域づく りに積極的に参加できるよう、野外活 動を通じて講座を実施する。	環境に関心を持つ 青年	6月30日 ～ 7月 1日	40人 / 100%	
	森のふれあい学習 イン乗鞍 (高山セカンド スクール)	継 続	家庭を離れた共同生活を通して、自己 の生活との対峙、仲間・異年齢の人々 を見つめる機会などを通し、自主性・ 社会性を養い自立を促す。乗鞍高原の 自然を生かした総合的学習の実践の場 を提供する。	ボランティア 小学校5年生	9月26日 ～29日 10月 2日 ～ 6日	259人 / -	
	第3回 乗鞍公開セミナー	継 続	新指導要領の実施の年を迎え、昨年ま で実施してきた総合的学習のセミナー を本年は、より実践的な地域素材の開 発や体験的な学習の在り方をワークシ ョップスタイルで開発し、学社融合の 接点を探る。	一般 教職員 社会教育施設職員	11月10日 ～11日	28人 / 100%	
淡 路	環境教育セミナー	継 続	個々の生活・自然観を問い直すワーク ショップをとおして、これから環境教 育を志す者の、基本的な視点の形成を 図る。	社会教育指導者 社会人 大学生 教員	1月25日 ～27日	34人 / 100%	
	通勤合宿	継 続	青年男女が、昼は職場で働き、夜は青 年の家を学習・生活の拠点とし、交流 を深めながら新しい仲間を作り友情の 輪を広げる。	青年男女	2月28日 ～ 3月 3日	13人 / 100%	南淡町 南淡町教育委員会
三 瓶	野外活動リーダー キャンプ (野外体験キャンプの 事前キャンプ)	継 続	青年が持つ活力を生かしつつ、ボラン ティア活動や体験活動を通し青年の心 を広げ、青年の生きる力の方向性を探 る。	高校・大学生 青年	8月 2日 ～ 4日	12人 / 100%	
	野外体験キャンプ in三瓶2001	継 続	長期野外体験活動をとおして、青少年 の自主的な活動意欲と行動力を育成し、 実体験や人と接するなかで、心のたく ましさ・やさしさを醸成する。	高校・大学生 青年 (小・中学生)	8月 5日 ～11日	56人 / 100%	島根大学教育学部

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
大 洲	Hand in Hand	継 続	日本の高校生と在日外国人の人達が、日本の伝統文化を体験し、日本と外国の歴史や文化の違いについて理解を深めるとともに参加者相互の交流を図る。	高校生・留学生 A E T	12月 8日 ～ 9日	53人 / 100%	
	子どもたちの ハートをつかめ	継 続	教育相談にかかわる教職員・施設職員等が、不登校状態にある児童・生徒、引きこもり青年及びその保護者の理解と対応の仕方について、教育的・心理学的見地から研修を行う。	小・中・高等学校 教職員、日本学校 教育相談学会愛媛 県支部会員不登校 児（登校拒否）対 応施設職員、教員 を志す学生	1月12日 ～ 13日	119人 / 100%	日本学校教育相談 学会愛媛支部
阿 蘇	「青年教育のための 学社融合事業」 ～新教育課程研修会～	継 続	総合的な学習の時間について、その基本的な考え方の理解を深め、先進的な取り組みや事例を知るとともに、地域社会との連携による展開を模索する。	小・中・高等学校 特殊教育諸学校及 び教育関係職員	6月 7日 ～ 8日	80人 / 92%	
	自然体験活動指導者 養成講習会	新 規	自然体験活動推進協議会（CONE）が実施する指導者養成事業を活用し、阿蘇の自然豊かなフィールドにおいて実習を中心とした講習会を行うことで、自然体験活動の基礎的な知識と方法を理解させるとともに、自然体験活動の企画立案と実際の指導ができる指導者の養成を目指す。	18歳以上の成人 （社会教育関係者、 教育委員会職員 学校職員、大学・ 短期大学生の学生 等）	第1回 9月29日 ～ 30日 第2回 10月13日 ～ 14日	53人 / 100% (1、2回 継続参加)	野外教育研究所 （IOE）
沖 縄	いきいき自然体験 キャンプ	継 続	心因性の不登校児童生徒を対象に自然体験や集団生活等、野外活動を体験させることにより、社会的な適応を支援する。	不登校児童生徒 及び関係者	9月21日 ～ 25日	87人 / 96%	沖縄県教育委員会 沖縄県適応指導者 教室
	サンゴ礁ウォッチング	継 続	環境教育の一環として、サンゴ礁生物群集をさまざまな角度から観察・学習し、人間と環境との関わり、よりよい共存のありかたを考える。	高校生以上	9月21日 ～ 25日	78人 / 100%	沖縄タイムス社

オ．関係機関との連携事業

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
磐 梯	福島大学教育学部 フレンドシップ 自然体験学校	継 続	大学生と児童・生徒が自然体験や野外活動を通して相互の人間関係を深めるとともに、大学生が教員として必要な実践的指導力の基礎を身につける。	小・中学生 教職を目指す 大学生	7月24日 ～26日	250人 / -	福島大学
	磐梯パノラマへの誘い 1 2	継 続	自然観察ハイキングを通し参加学生間の交流や親睦を深めるとともに、磐梯の自然や文化に接することにより、心と体のリフレッシュを図る。	放送大学生 観測天文学入門	8月16日 ～17日	28人 / 96%	放送大学
				放送大学生 保健体育	8月18日 ～19日	64人 / 96%	
	World Youth Club In 磐梯	継 続	各国の青年男女が集い、冬の体験活動を通して、交流を図るとともに、身近なテーマについて話をしたりして互いの理解を深め、国際感覚を養う。	高校生以上の海外 出身の青年 日本青年	1月12日 ～14日	54人 / 97%	福島県国際交流 協会、福島大学 会津大学、新潟大 学
スノーワールド in 磐梯	継 続	冬の磐梯山系の素晴らしい自然を、歩くスキーを通して満喫するとともに、外国青年を含む参加青年等が交流を図り相互理解を深める。	青年等	2月22日 ～24日	109人 / 100%	東北大学 放送大学	
赤 城	海彦山彦交流のつどい ～尾瀬エコツアー～	新 規	家族を対象として、湿原植物の宝庫「尾瀬ヶ原」の自然散策をとおし、自然の美しさ、神秘性に感動する心や豊かな感性を養う。さらには、参加家族相互及び異世代間の交流を図る。	群馬県及び千葉県 の小学校5年生～ 中学生のいる家族	7月22日 ～24日	36人 / 100%	千葉県立大房岬少 年自然の家
中 央	地域子ども活動 リーダー講習会	新 規	地域の子どもの活動を指導できる青年を育成することにより、地域活動の促進と青少年の健全育成に資する。	青年	10月13日 ～14日	19人 / -	童親会
					1月12日 ～13日	21人 / -	

現代的課題、今日的な青年教育に関する事業のアンケート調査による参加者の満足度

目標：満足度 80%以上

アンケート質問事項：この事業に参加していかがでしたか。

選択項目	とても有意義であった	有意義であった	あまり有意義でなかった	有意義でなかった
割合	55.4 %	40.0 %	3.9 %	0.7 %
満足度	95.4 %			

別添資料 7

国民に対して提供するサービスその他の業務への質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 主催事業の実施状況

(2) 学校週5日制対応事業についての取組状況

学校週5日制に対応するため、これまでの対応事業の成果をまとめ、平成14年度以降の事業の在り方について検討し、その検討結果に沿って事業を実施した。

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日(期間)	参加人数 / 満足度	共 催
大 雪	高等学校・施設連携 研究協議会	新 規	青年の家を活用した高等学校の総合的な学習の時間のあり方について研究協議を行う。	教育行政関係者 高等学校教育関係者	4月 1日 ～ 28日	- / -	
磐 梯	親子ふれあい夏体験	継 続	磐梯高原の自然の中で、親子がともに協力しあい、クッキングなどをしながら親子のふれあいを深める。	小・中学生及び その保護者	7月14日	38人 / 100%	
	親子ふれあい秋体験	継 続	秋の磐梯高原の自然の中で親子がともに遊び、語り、協力しあいながらふれあいを深める。	小・中学生及び その保護者	10月13日 ～ 14日	38人 / 100%	
赤 城	あったかぞく ～南房総春の海～ ～万緑のあかぎ～ ～秋日和のあかぎ～	新 規	自然体験、宿泊体験等を行うことで、家族・親子の触れ合いやきずなを深めるとともに、参加家族相互、異世代間の交流を図る。青年は、ボランティアとしての知識、心構へを身に付ける。	小学生以上の 子どものいる家族 ボランティア活動 のできる青年	南房総春の海 5月 3日 ～ 5日	54人 / -	千葉県立大房岬少年自然の家
					万緑のあかぎ 7月27日 ～ 29日	63人 / 100%	
					秋日和のあかぎ 10月27日 ～ 28日	60人 / 100%	
能 登	高校生ニューリーダーの集い ～学校祭をプロデュースする～	新 規	各高校生徒会が抱える現状・諸問題を討議し、生徒会リーダーとしての資質や企画運営力を高める。	高等学校生徒会役員	6月 9日 ～ 10日	55人 / 90%	
	ファミリーキャンプ & フィッシング ～親子リフレッシュ～	継 続	キャンプやフィッシングなどの野外活動を通して、親子のふれあいや絆を深め、家族間の交流を図るとともに、自然の力の偉大さ大切さに触れることにより、環境保護への意識を高める。	家族	キャンプ 9月 8日 ～ 9日 フィッシング 10月13日 ～ 14日	45人 / 100% 48人 / 100%	

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
乗 鞍	森でキャンプ	新 規	星座観察や自然観察等の野外活動を通して、青年の家周辺の大自然を満喫する。又、家族の絆を深め、参加者相互の交流を図る。そして、青少年教育施設指導者養成セミナー修了者の活躍の場とする。	青少年・家族	7月14日 ～15日	61人 / 100%	飛騨高山乗鞍高原 連絡協議会
	花もち作り	新 規	飛騨地方の伝承文化を知り、花もち作り・餅つきを体験する。又、家族の絆を深め、参加者相互の交流を図る。そして、青少年教育施設指導者養成セミナー修了者の活躍の場とする。	青少年・家族	12月15日 ～16日	35人 / 90%	
	冬に遊ぶ	新 規	冬の飛騨乗鞍高原の自然の厳しさを体感する。又、家族の絆を深め、参加者相互の交流を図る。そして、青少年教育施設指導者養成セミナー修了者の活躍の場とする。	青少年・家族	3月 9日 ～10日	38人 / 100%	
中 央	ノビノビホリデー 友遊体験倶楽部 ネイチャーゲーム	継 続	児童・生徒とその家族に、学校週5日制の週末に施設を開放し、ネイチャーゲーム等で有意義に過ごす機会を提供する。	児童・生徒と その家族	5月26日 ～27日	34人 / -	
	ノビノビホリデー 友遊体験倶楽部 ふれあいキャンプ	継 続	児童・生徒とその家族に、学校週5日制の週末に施設を開放し、有意義に過ごす機会を提供する。	児童・生徒と その家族	9月 8日 ～ 9日	44人 / 100%	
	ノビノビホリデー 友遊体験倶楽部 竹馬チャンピオン に挑戦	継 続	児童・生徒とその家族に、学校週5日制の週末に施設を開放し、有意義に過ごす機会を提供するとともに、実践ボランティア講座受講者の施設ボランティアとしての技能・実践力の向上を図る。	児童・生徒と その家族	2月23日 ～24日	40人 / 100%	
三 瓶	学校週5日制対応事業 地域の教育力高揚事業 【春】【秋】	継 続	様々な親子や友人との交流活動、共同体験を通して、子供の自発性自立性を喚起し「生きる力」の育成に努める。各体験活動を通して親や大人が地域活動の支援者としての意識や態度を育成する。	小学4年生以上の 親子、家族	春 5月12日 ～13日 秋 9月22日 ～23日	22人 / - 19人 / 100%	

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
三 瓶	学校週5日制対応事業 『歩くスキー・ フェスティバル』	継 続	三瓶山麓をフィールドとして、歩くスキーにより冬の自然観察等を行う。また、歩くスキーを家族や友人達と体験することにより様々な交流活動を行う	全世代	1月26日 ～27日	144人 / 100%	島根県スキー連盟
	学校週5日制対応事業 『音楽クリニック』	継 続	音楽を愛好する青少年がつどい、音楽を楽しみながら技術の向上をはかり、参加者相互の交流を深める。	高校生	3月9日 ～10日	81人 / 95%	
江 田 島	カッターズ春キャンプ ～笑顔が満開 フレッシュキャンプ～ カッターズ夏キャンプ ～笑顔サンSUN キャンプ～ カッターズ秋キャンプ ～くりひろげよう みんなのキャンプ～ カッターズ冬キャンプ ～ゆきっこ！！ 輪・話・和キャンプ～	継 続	多くの人と出会い、共に生活する中で、ルールを守り、人としてのマナーを身につけ、何事も積極的に取り組む中で自分自身を見つめ直す。また、自然を体験し、感受性や思いやりの心を育てる。	小学校4年生～ 中学校3年生・ 高校生	春 6月9日 ～10日	101人 / -	青年ボランティア グループ 「カッターズ」
	夏 8月25日 ～27日				111人 / 100%		
	秋 10月27日 ～28日				121人 / 100%		
	冬 12月25日 ～27日				119人 / -		
阿 蘇	親子で体験！伝承文化	新 規	親子で創作活動を楽しく体験し、ものを作り上げる過程の中で、達成感や成就感を味わい、親子の交流を図る。また、他の人々とのふれあいを通して、社会生活の大切さやルールを学ぶ場とする。	家族	12月8日 ～9日	64人 / 100%	
	阿蘇の四季をさがそう	継 続	阿蘇の自然・歴史・文化にふれ、豊かな心を育む。親子で活動することによって、対話を深める。また、施設ボランティアの活用・育成の機会とする。	家族	3月9日 ～10日	72人 / 100%	

学校週5日制対応事業のアンケート調査による参加者の満足度

目標：満足度80%以上

アンケート質問事項：この事業に参加していかがでしたか。

選択項目	とても有意義であった	有意義であった	あまり有意義でなかった	有意義でなかった
割合	60.0 %	38.3 %	1.7 %	0 %
満足度	98.3 %			

別添資料 8

国民に対して提供するサービスその他の業務への質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 主催事業の実施状況

(3) プログラム開発及び普及状況

新規プログラムを開発し、公立青年の家等に普及することにより青年教育の振興を図るため外部有識者（学識経験者、民間教育事業者、教育行政関係者、社会教育関係者等）から構成される委員会を組織するもの、施設内に職員による開発プロジェクトチーム等を設置し外部有識者の意見を取り入れる等の体制を整備し、事業を実施した。

また、開発したプログラムについては、事業報告書を作成し配布するなどの方法で公立青年の家等への普及に努めた。

プログラム開発事業の実績

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
大 雪	ゆーすびあ大雪 ニューイベント プラン開発事業	新 規	新規主催事業の開発企画プロジェクトチームを設け、新規事業を開発、実施その成果を公立青年の家へ普及させる。	青年団体関係者 学校関係者 野外教育指導者	1月26日 ～27日	36人 / -	
岩 手 山	カンガルーキャンプ	新 規	ひきこもりがちな青年が、自然体験やグループワークを通して、自主性、社会性を育み、心身ともに健康な生活ができるようなきっかけをつかむ。	ひきこもりがちな 青年	7月17日 ～15日	9人 / -	
	テンパークe-戦略 （新規） 研究委員会	新 規	インターネット上の仮想空間に青年の家をつくり日時にとらわれることなく、いつでも自分の好きなときに学習の機会を得ることができる場を提供する。	国立岩手山青年の 家の事業に関心のある者	4月～翌年3月 7月 2月	-	
赤 城	ユースフォーラム ～現代若衆宿の構築～	新 規	疾風怒濤の時期を過ごす青年が、仲間との語らいや活動の中で、全国の自分の生き方を模索する。	17歳前後の青年	3月23日 ～25日	43人 / -	国立オリンピック 記念青少年総合センター
能 登	野外活動指導者研修会	新 規	野外教育に必要な知識や技術をアクティビティ体験を通して習得し、指導者としての技能を高める。	野外教育の指導者 及び野外教育に関心のある者	10月27日 ～28日	25人 / 100%	
	レッツ！ スキューバ ダイビング	新 規	スキューバダイビングを体験することで、その基礎知識や技能を学ぶとともにマリンスポーツに積極的に参加しようとする意欲を高める。	青少年 （高校生以上）	12月 8日 ～ 9日	20人 / 100%	

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
中 央	感性を育てる 日本文化セミナー	新 規	伝統文化を体験的に学び、その良さを現代生活に見いだし、国際社会の中で新たな日本文化の創造や日本人について考え、自己の生活を振り返り、感性豊かな人生観を構築するための機会とする。	15歳～30歳 (中学生を除く)	セミナー 1 9月22日 ～23日 セミナー 2 10月27日 ～28日 セミナー 3 11月24日 ～25日	10人 / 100% 6人 / 80% 10人 / 100%	
	富士のさとエコロジー 実践セミナー -自然と人の 心にふれて-	継 続	自然に包まれている自分、人に支えられている自分を体感しながら、自然と人間を含めた環境とよりよい関係を築いていこうとする心を育てる。	15歳～30歳 (中学生を除く)	8月 9日 ～12日	14人 / 100%	
中 央	青春の旅2001 -野外活動 まるかじり-	継 続	青年のリーダーを育成するために、近隣の青少年教育施設と連携し、各施設の特徴あるプログラムの体験を通して、野外活動の知識・技術を習得させるとともに仲間との信頼関係を深め、併せて、青少年教育施設への理解を図る。	15歳～30歳 (中学生を除く)	8月15日 ～21日	24人 / 95%	
淡 路	環境教育プログラム 開発・普及事業委員会	新 規	当青年の家の教育資源を広い視野から再検討し、立地条件を生かしたプログラムを開発する。	-	8月15日 ～ 15年3月31日	-	
三 瓶	デアリー・アクト (体験学習事業)	継 続	三瓶開拓酪農農業協同組合および周辺農家の理解と協力のもとに、酪農農家での勤労・生活体験をファームステイを通して、生命・環境問題・食糧問題・対人関係を学習することをねらいとする。	青年 高校生 中学生	通年	106人 / 100%	協力 近畿中国四国農業 研究センター 三瓶開拓酪農農業 協同組合
	Science Seminer	継 続	理数科高校生の校外学習の一環として、また自然科学に興味・関心を持つ高校生を対象に、著名な指導者・研究者を招聘し生物・地学・化学・物理に関する各種実体験を行い、自然・環境・生活・科学当に対するリテラシーの高揚を高める。また、日本でも有数の和牛養殖の地という特性を生かし、地場産業・地域環境に科学的アプローチを試み、科学の進歩における人間生活と自然環境を考え「生命」に触れることをねらいとする。	高校生	年6回	310人 / 94%	近畿中国四国農業 研究センター 三瓶開拓酪農農業 協同組合 協力 国立科学博物館 千葉県立現代産業 科学館 千葉県立中央博物 館 石見銀山資料館

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
三 瓶	総合的学習事業	継 続	2003年から実施される「総合的な学習の時間」に向けて、近隣の高等学校と連携して、宿泊を伴う又は宿泊を伴い長期的な利用によるプログラムの開発・実施を行う。三瓶の地域や青年の家の施設の特性を生かし、自ら課題をもうけて行う学習や将来の生き方を考える学習を展開し、「生きる力」を育成する。	高校生	7月10日 ～11日 9月17日 ～18日	146人 / 81%	協力 国立科学博物館 近畿中国四国農業 研究センター 三瓶開拓酪農農業 協同組合 島根県立農業大学 校 石見銀山資料館
江 田 島	高校生セカンド スクール	継 続	青年の家の持つ教育機能を効果的に活用し、高校生の「正規の授業」を展開することによって、青年の家を利用した（特に海に関する）総合的な学習の時間に関するプログラムを開発する。	広島県内高等学校 生徒	5月28日 7月16日～17日 8月9日～12日 8月25日～28日	459人 / 92%	
	海辺の「自然学校」 スタッフ 事前研修会	継 続	海辺の「自然学校」が、効果的で安全に実施できるよう現地の状況を把握し、活動プログラムについて検討する。また、スタッフ相互の交流を深めることにより、円滑に事業が実施できるようにする。	学生・働く青年	6月9日 ～10日	9人 / -	倉橋町 倉橋町教育委員会 広島県キャンプ 協会
	海辺の「自然学校」		自然豊かな鹿老渡での自然体験活動を通して、仲間と協力する力や自然を感じる力を育てる。鹿老渡の地域の人々との交流を通して、地域の文化や伝統を学ぶ。	小学校4年生以上 中学生 高校生	8月3日 ～10日	30人 / 100%	
	働く青年のための 「若衆宿」 (夏・冬編)	継 続	働く青年が「青年の家から職場に通う」という試みにより、友人関係を広げたり心身をリフレッシュするなど、日常生活の充実をはかる。	働く青年	7月5日 ～22日 1月10日 ～27日	234人 / 98%	
	青年のための 体験航海セミナー	継 続	海に関心を持つ青年が集い、国立広島商船高等専門学校での航海や国立江田島青年の家での調査活動しながら、瀬戸内の生物、気象、潮流、歴史等に関して体験的に学ぶ。	高校生・学生・働く 青年及び海洋関係 の進路に関心のある 中学校3年生	8月22日 ～25日	35人 / 100%	広島商船高等専門 学校
	高校生と外国人留学生 との交流会	継 続	高校生と現在日本に留学中の外国人留学生（高校生）及び外国語指導助手との交流を通して、多様な文化に対する理解を深め、国際社会主体的に活躍できる青年の育成を図る。	留学を希望する高 校生、留学体験の ある高校生、日本 に留学中の高校生	12月18日 ～20日	35人 / 92%	広島県教育委員会

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
大 洲	1人からいける！ 石鎚山登山	新 規	西日本最高峰石鎚山や面河渓を探索することにより、青年が体験・交流をとおして山の多くの楽しみまた感動を互いに分かち合うとともに、環境に関する問題解決に向けた努力と行動ができる人材を育成する。	高校生以上 （社会人・放送 大学生を含む）	10月12日 ～14日	15人 / 100%	
阿 蘇	A S O わくわく自然体験村	継 続	阿蘇の大自然を最大限に活用した自然体験村を設置し、「生きる力」の育成の一端を担うことを目的とするとともに、青年の家ボランティアや地域の人材の有効活用の機会とする。	青年及び小・中学生	7月30日 ～ 8月10日	51人 / -	
沖 縄	親子アウトドア教室	新 規	自然体験やキャンプ生活を通して、親子の絆を深めるとともに、子育てにおける親の役割、家族の大切さについて考える。	小学生以上と その家族	5月 3日 ～ 5日	155人 / -	沖縄タイムス社
	とかしき マリンフェスタ	新 規	マリンスポーツ体験やレース、研修や情報交換を通して、マリンスポーツの活性化や普及を図るとともに、海についての理解を深める。	マリンスポーツ 関係者等	10月13日 ～14日	65人 / 96%	渡嘉敷村 沖縄県カヌー協会

公立青年の家への普及実績等

施設名	事業名	開発体制の整備実績	プログラム開発実績	公立青年の家への普及実績	利用団体への普及実績
大雪	ゆーすびあニュー イベントプラン 開発事業	新規主催事業の開発のために外部の有識者による企画委員会を設けた。	上記企画委員会の発案により、モデル事業として「子育て支援ネットワークセミナー」が誕生した。	企画委員会の協議内容やモデル事業の実施状況について、報告書を作成し、道内市町村や公立青年の家等に配布した。	「子育て支援ネットワークセミナー」を実施し、業種を越えて参加者のネットワークが形成された。
岩手山	カンガルーキャンプ テンパークe-戦略	主催事業「カンガルーキャンプ」「テンパークe-戦略」において、研究委員会、推進委員会を組織し、学識経験者、社会教育関係者、教育行政経験者、民間教育事業者等を委員に招き、定期的に会議を開催することでプログラム開発における開発体制を整えた。	主催事業を通して、引きこもりがちな青年を対象にしたプログラムのあり方やインターネット上における学習のあり方について実践を通して得た成果や課題を実施結果報告書にまとめ、国立岩手山青年の家ホームページで公表した。	大がかりな普及の方法はとっていないが事業終了後に作成した実施結果報告書を事業報告という形で国立岩手山青年の家のホームページで公開している。さらに、岩手県内青少年集団宿泊教育施設合同研究会による情報の提供とお互いの施設訪問による情報交換を行った。	今年度は、主催事業にかかるプログラムの開発であったため、新規活動プログラムの開発はない。よって、現段階での普及活動は実施していない。
磐梯	青年の「生きる力」の 涵養をめざすアクティ ビティの開発事業	所内の専門職員での検討と開発委員会での委員からの意見が反映するような形で整備を図っている。	環境学習プログラム青年版の開発を実行委員会形式で実施した。	・冊子にまとめたものを送付している。 ・問い合わせによる説明をしている。	事前打ち合わせにおいて、その団体の実態にあわせプログラムの紹介を行っている。
赤城	馬事公苑との連携事業	新規受け入れプログラム開発のため青年の家周辺における教育資源について、専門職員及び業務係長が中心となり調査、分析し、必要に応じて関係機関への働きかけを行った。	青年の家から至近の距離にあり、県の施設である馬事公苑と連携し、青少年及び家族を対象とした新たな受け入れプログラム（乗馬教室）を開発した。また、連携先である馬事公苑が主催する事業においても青年の家を活用してもらい、双方の施設のメリットを生かす事業を行っている。	開発したプログラムは試行段階であり、公立青年の家への普及段階には至っていない。	活動プログラムガイドへの掲載、利用パンフレットの配布など利用団体への紹介、普及を行っている。
	主催事業ユース フォーラム	施設ボランティア及び地域の青年が主体的な主催事業への関わりを持つ事業とするため、県内の青少年団体、ボランティア団体と連携し、準備委員会、実行委員会を組織した。	青年が主体的に進める準備委員会、実行委員会で、主催事業のねらい、プログラムデザイン、講師選定、実際の事業運営を行うなど、青年の主体的な企画、運営に努めた。また、参加者に事業のねらいだけではなく、参加の動機や心の動き等を常に共有するプログラムを実施した。	実行委員や参加した青年は、各所属団体や公立施設でボランティア活動や研修指導員を努めている者がいるため、このような青年が主体的に主催事業に関わる事業形態は、普及していくものと考えられる。	自分だけの団体だけではなく、他団体とのネットワークを密にして事業を企画、運営していくやり方は、青少年団体、ボランティア団体等の利用団体へ普及可能と思われる。

施設名	事業名	開発体制の整備実績	プログラム開発実績	公立青年の家への普及実績	利用団体への普及実績
能 登	-	班編成（専門職員+業務係）によるペ アリングで事業の開発を行った。	<新規主催事業> レッツ！スキューバダイビング 野外活動指導者研修会 ボランティアフォローアップセミナー <新規受入れプログラム> ナイトアドベンチャー	石川県青少年教育施設連絡協議会を設立 し、県内施設への指導普及に努めた。	チラシを作成し、利用案内とともに送 付し報道機関（新聞・テレビ・ラジオ ）を利用して周知を図った。
中 央	-	・主催事業に関しては、事業課長の助 言を受け専門職員がプログラム開発や 新規事業開発を担当している。 ・受入れ事業に関しては、業務係の援 助を受けながら専門職員がプログラム 開発にあたっている。ミンクラフト では、職員だけでも指導ができるよう プロジェクトチームを作って研修を行 った。	・主催事業では、本年度新規事業「感 性を育てる 日本文化セミナー」を実 施し、和紙のはがき作り・墨絵・落款 作り等の日本文化を見直すプログラ ムを開発した。 ・県立青少年教育施設と連携した「青 春の旅2001 野外活動まるかじり」で は、海の活動と山の活動がセットで できるプログラムを開発した。また、野 外活動にかかわる青年リーダー養成事 業としてのプログラムとすることもで きた。 ・民間の野外教育事業者と連携した「 富士のさとエコロジー実践セミナー」 では、環境教育をねらいとした野外活 動プログラムを開発した。 ・受入れ事業では、雨天時の活動プロ グラムが少ないことから、創作活動プ ログラムを開発中である。また、民間 の乗馬クラブと連携し、当所の研修プ ログラムに乗馬体験を加えた。	・四所連携事業では本所が中心的役割を 担っているが、四所がそれぞれの特色が 出せるよう議論を重ね、プログラムを作 っていった。連携して主催事業を実施し、 プログラムを共同開発すること自体が、 本所のプログラムの公立青年の家への普 及になっている。また、プログラムの普 及だけでなく、事業実施の手法も普及で きるよう整備している。 ・他の公立青年の家には、主催事業の報 告書を配布することで普及に努めている。	・主催事業に関しては、ダイレクトメ ールで開催要項を送付した。 ・受入事業については、冊子「活動プ ログラム」をリニューアル中である。 ・主催事業・受入れ事業ともHPで利用 者に広報している。

施設名	事業名	開発体制の整備実績	プログラム開発実績	公立青年の家への普及実績	利用団体への普及実績
淡 路	-	本年度、『環境教育プログラム開発のための委員会』を設置した。委員会は、海洋型の青年教育施設の立場から当所における環境プログラムの開発を行うことを目的とし、委員には外部から各分野に精通した5名に委嘱し、当所専門職員と共にプログラムの開発にあたる。	(1) 期 間 平成14年1月15日～ 平成15年3月31日 (2) プログラムの対象 小学校・中学校の生徒を対象とするが、もう少し上の年齢層も視野に入れる。プログラムの対象人数は40名程度とする。 (3) プログラムの領域 ・海浜の自然の理解を目的としたもの ・海、風と人間との関わりを目的としたもの ・淡路の産業や暮らしをテーマにしたもの (4) 内 容 ・環境教育に結びつけた内容 ・本施設の特性を生かした内容 ・自然学校や野外活動にて指導者が利用できる内容 ・知識を学ぶものから自然活動に関わってゆく人間を育成できる内容 (5) 成果物50枚のプログラムシートを作成する。	インターネットにて公開し、公共の施設にとどまらず個人が自由に閲覧、利用できるものとする。	利用団体には専門職員がプログラムの紹介をすると共に、各利用団体がプログラムシートを利用して指導できるものとする。
三 瓶	デアリー・アクト Science Seminar 総合的学習事業 (2高校)	・立地条件、現代的課題、指導者養成等の観点から関係機関の動向と相俟って、年度ごとに何が必要でどの領域に力を注ぐか研究し、主催計画を整備している。 ・環境(自然)、人(指導・支援)、物(施設)とで三瓶の特異性を考えながら常に新しいプログラム開発を展開している。	・新しく開発したプログラムとしては「総合的な学習の時間」や試験的に実施した通年による「デアリー・アクト」がある。 ・四季にわたる標準的なプログラム(中・高と各団体の人数別による)を開発し、広く地域社会に提示している。今年度新しく開発したプログラム項目は次のとおりである。 ・ブーメラン(創作活動) ・紙粘土アクセサリー(創作活動) ・グリーンアドベンチャー(自然観察) ・「総合的な学習の時間」のプログラム	・「総合的な学習の時間」のプログラムについて報告書を作成し中国・四国地方の公立青年の家へ4月中旬に送付する。 ・島根県内の公立の施設へは13年12月実施の青少年教育施設職員研修で報告し普及を図りながら連携を深めている。 ・「総合的な学習の時間」、「週5日制」対応プログラムを各県・市町村教育委員会へ配布した。	・受入れに関する新規のプログラムについては、利用の申し込み書と一緒に一覧表を送付している。 ・「総合的な学習の時間」、「週5日プログラム」を各県・市町村教育委員会へ配布した。 ・特筆すべき事項(地域社会に提示したい話題)は常に新聞、テレビ等で紹介している。

施設名	事業名	開発体制の整備実績	プログラム開発実績	公立青年の家への普及実績	利用団体への普及実績
江田島	-	専門職員会議を定例的（毎月1回）に開催し、新規プログラムの開発を行う。	新規に3プログラムを開発し、実施している。 ・グリーンアドベンチャー ・海辺の散策 ・ディスク・ドッチ	・5事業について報告書を作成し配付した。また、主催事業すべての実施結果をまとめた報告書を配付した。 ・広島県青年の家等連絡会議を開催し、事業説明、情報提供等を行っている。	指導者用資料を作成した。
大洲	-	専門職員を中心とした新規プログラム開発担当者が、プログラムの研究を行い、所内でプログラムの体験を重ねていく。例えば、平成11年度の「自然環境館」完成に伴い、「環境学習プログラム開発委員会」を設け、「環境教育企画担当者セミナー」等の主催事業において、利用者に提供できるプログラムの開発を進めた。開発プログラムが、教育的効果が認められるプログラムと判断されれば、実施に向けて、実施の手引きやチラシなどを整えていく。	・平成12年度から平成13年度にかけては、クライミングウォールの完成に伴い、スポーツライミングを新規プログラムとして開発した。その広報を兼ねて、平成13年9月には「スポーツライミング講習会」を実施した。 ・平成12年3月に完成した環境教育のインテリジェントビルの機能を有する「自然環境館」を活用した環境学習プログラムを現在開発中である。また、その一環として、アルミ廃材を溶解炉を使って再利用して作品を制作する「アルミでアート」は、大洲市の科学体験フェスティバルにも出展し、話題を集めた。	主催事業において作成した環境学習プログラムは、「総合的な学習の時間」との関わりから、公立青年の家を利用する際に小・中学校の活動プログラムで実施されることが予想される。 また、当所で施設職員指導者研修を定期的に実施し、先導的なプログラムや新しい指導方法の普及に努めている。平成14年度は、中国・四国地区の青年教育関係施設職員に対する研修会を予定している。	・スポーツライミングは、話題性もあって、完成後利用団体の人気が高い。例えば、集団宿泊研修の小・中学生、高校生をはじめ、遠足の小中学生、毎週末には社会人山岳会等と利用率が高い。 ・主催事業において作成した環境学習プログラムは、平成12年度より、学校の活動プログラムとして組み込まれる例が見られるようになった。また、日帰りで、地域の小・中学校の理科クラブなどでも利用がみられる。

施設名	事業名	開発体制の整備実績	プログラム開発実績	公立青年の家への普及実績	利用団体への普及実績
阿 蘇	-	<p>主催事業にかかるプログラムの開発については、新規の主催事業を中心に行っており、専門職員が研修やフィールド調査等を行い、開発したものを企画委員の助言を受けることで精度を高めている。また、当施設の主催事業など、各種の研修において講師から指導を受けた内容を、専門職員が阿蘇のフィールド等に対応させるなど、再開発を行っている。また、当青年の家と阿蘇にある9つの文化施設が組織する「阿蘇・学びの館ネットワーク」と合同で、他施設が持つ機能を取り込みながらプログラムを開発している。</p> <p>今後は、主催事業において開発したプログラムを、受け入れ事業において、研修団体が自主的に取り組めるプログラムに再加工することが課題である。</p>	<p>本年度は企画委員会を設置した「キャンプカウンセラー実践講座」において、阿蘇と同じ国立公園内にある久住で登山等を中心にしたプログラムを実施するなど、プログラムの広域化を図った。同じく企画委員会を設置し、環境教育を主題とした「ジョイントカレッジinASO」では、社会教育を学ぶ学生の授業を当青年の家で実施したが、日ごろ学生が接することのない河川において水性生物の調査や上流の沢歩きなど、阿蘇山のめぐみである水をテーマにしたプログラムを開発し、地域の自然を再発見することができた。ともに、当青年の家周辺の自然豊かな環境を、最大限生かしたプログラムであり、参加者には好評であった。</p> <p>また、「親子で体験！伝承文化」では、地域の伝承文化のプログラム化に取組み、地域の代表的な風の作成と凧あげを行った。今後は、これらのプログラムを受け入れ事業において展開できるよう指導者の確保やマニュアルの作成に取り組むことが課題となる。</p>	<p>公立青年の家には、事業報告書や各種の会合で発表することで、普及を行っている。今後は紙上や口頭の発表だけではなく、「九州地区青少年教育（施設）関係職員研修」などの主催事業において、開発したプログラムを実際に参加者に体験させるような取組を行っていくことが課題となる。</p>	<p>利用団体への普及については、利用団体の指導者を対象とした主催事業「利用団体担当者研修」においてプログラム紹介として実施するとともに、利用団体個別に行う事前の利用相談においても実施している。今後は、新規に開発するプログラムの指導について、専門職員、研修指導員、ボランティアがその指導法を研修する体制を整えていくことが課題である。</p>

施設名	事業名	開発体制の整備実績	プログラム開発実績	公立青年の家への普及実績	利用団体への普及実績
沖 縄	-	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野の非常勤講師を招聘して、青年のニーズの把握に努め、各領域のプログラムの現状について理解を深め、実際の事業の中で行い、発展に努めている。 ・教育センター、学校、公民館等との連携をすすめている。 ・主催事業の実施計画の段階で講師や非常勤講師、施設ボランティアと打合わせを行っている。 ・事前踏査を入念に行い、プログラム展開場所での安全確認を含めた詳細な計画を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年を取り巻く教育課題や青年のニーズ等、調査分析、情報収集に努める。 ・職員研修として、シュノーケリング指導者養成講座を行ったり野外炊飯などを体験する中で、主催事業や受入れ事業で取り入れられる項目について研鑽を深めている。 ・ウエットスーツやキャンプ場でのボイラー設置、シュラフ導入など、冬場の海洋研修、テント泊等これまでさほど活動していなかった時期の活動が行える準備を進めている。 ・シュノーケリングの器材導入に加え、指導者の養成事業「マリンスポーツ指導者講習会」を平成14年度も予定している。水辺活動の課題でもあるシュノーケリングをプログラムとして開発することにより、今後、「総合的な学習の時間」や自然観察の新しい分野の開拓に取り組んでいる。 ・「総合的な学習の時間」や「完全学校週5日制」に対応するプログラムの改善及び新規開発プログラムなどをすすめるに伴うハード面での環境整備をすすめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・閑散期の冬季におけるプログラム開発については温暖であることに従前以上に着目し、ボクシング、野球等の長期合宿の野外活動の連携、生涯学習社会への対応として年齢を超えて楽しめるグランドゴルフ等のプログラム開発を検討している。 ・各主催事業へ他施設の専門職員やその他関係職員の参加を促し、先導的な事業、プログラムの展開について普及を図っている。 ・沖縄県青少年教育施設連絡協議会において実施報告を行い、それぞれの活動の有効性や発展性について客観的な検証が行えるよう努めている。 ・「無人島キャンプ」、不登校児童対応事業「いきいき自然体験キャンプ」、「セカンドスクール」など、国立沖縄青年の家の代表的な主催事業については今後のさらなる充実・発展を図っていく方針である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動プログラムのメニューを利用申し込み団体へ送付し、併せて専門職員が行うプログラムの調整（電話連絡）の際、新しいプログラムを取り入れるよう奨励している。 ・かつて主催事業として行っていた内容を受け入れ団体が主体的に行えるようアドバイスをを行っている。 ・通学合宿の「セカンドスクール」や不登校児対応事業「いきいき自然体験キャンプ」などは受入れ事業の内容として、団体の主体性を尊重しつつ、受入れ事業として移行をすすめている。

国民に対して提供するサービスその他の業務への質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 主催事業の実施状況

(4) 事業成果及び調査研究の取りまとめ状況と関係機関への普及状況

新規活動プログラムを開発し、公立青年の家等に普及することにより青年教育の振興を図るための調査研究体制を整備し、事業実施で得られた成果を調査研究、とりまとめを行うための事業を次のとおり実施した。

調査研究事業の実績

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日(期間)	参加人数 / 満足度	共 催
乗 鞍	中学生・高校生の ボランティア活動の 在り方に関する 調査研究	新 規	教育改革国民会議の報告を踏まえ平成13年1月に取りまとめられた「二十一世紀教育新生プラン」に基づき、特に緊急に対応すべき事項として盛り込まれたボランティア活動など社会奉仕体験活動や自然体験活動の促進に関する事項について、社会教育施設と学校教育では、どのような在り方が望ましいかについて調査研究を行い、公表する。	-	第1回 12月4日 第2回 2月27日	-	
	指導者養成セミナー のカリキュラム開発 委員会	継 続	青少年教育施設を中核として、青少年の健全育成に関わる青年指導者を養成することを目的として、教育関係機関との連携をはかり、指導的役割を担う学識者や教育経験者の助言を得て、セミナーのカリキュラムを様々な角度から検討し、カリキュラム修正を行う。	-	第1回 5月17日 ~18日 第2回 3月14日 ~15日	-	
中 央	高等学校の 総合的な学習に向けた 青年の家の取り組み についての調査研究	新 規	有識者、高等学校教員、青少年教育職員等で研究委員会を設置し、高等学校における総合的な学習の実施に向けて、青年の家で実施できるプログラムの開発をするために、調査・研究を行う。	-	第1回 10月17日 第2回 12月7日 第3回 1月17日	-	

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
江 田 島	「喘息やアレルギーなどの子どもを対象とした体験活動推進事業」	新 規	喘息やアレルギーなどの子どもやその保護者が、安心して自然に触れたり体験活動を行ったりすることなどができる場を積極的かつ効果的に提供し、体力を高めたり、心を解放したりする。	喘息やアレルギーなどの子ども（6～18歳）とその家族	第1回 8月19日	105人 / -	実行委員会
	第2回 10月21日						
	第3回 12月9日						
	アスピリット・デイ キャンプ（3回）				9月8日 ～9日	18人 / 100%	
	アスピリット・ キャンプ&セミナー				11月10日 ～11日	37人 / 94%	
阿 蘇	「主催事業参加者の 変容に関する 調査研究」	継 続	野外活動を中心としたキャンプにおいて、支援的指導を行うキャンプカウンセラーとしての学習を行うとともに、阿蘇くじゅう国立公園の大自然の中で野外活動をおこなうキャンパーに対して実際のキャンプ場で野外活動ボランティアとして活動しながら、その技能・資質の向上を図ることを目的とする。	青年及び成人 小学5年生 ～中学生	7月30日 ～8月10日	51人 / 100%	
	キャンプカウンセラー 実践講座						
	「主催事業参加者の 変容に関する 調査研究」	継 続	青少年教育施設と大学が連携を図りながら、社会教育を専攻する学生と社会教育関係者等に、理論的かつ実践的な学習の機会を提供し、社会教育における現代的課題に対して理解を促すとともに、関連した事業を実施する際の企画立案能力等を養う。	大学・短期大学の 学生 社会教育関係者 教育委員会職員 大学関係職員	8月27日 ～30日	58人 / 100%	松山東雲大学 福岡教育大学
	ジョイントカレッジ in ASO						

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
-----	-----	-------	-----	-----	--------	------------------	-----

事業成果及び調査研究のとりまとめ実績

各施設において、事業終了後参加者からのアンケート結果を分析・考察した上で、成果と今後の課題、参加者の評価について報告書としてとりまとめ作成している。

事業成果の普及実績

とりまとめた報告書を青少年教育施設、教育委員会や公立青年の家等に配布して普及するとともに、職員が直接会議等に出向き報告したり、施設職員の研修会等で発表するなどして普及に努めている。また、公立の施設職員、学校教員の研修や教育実習生を受け入れ、事業内容にあわせて事業運営の方法についても普及している。

調査研究の公表実績

とりまとめた報告書を青少年教育施設、教育委員会や公立青年の家等に配布したり、ホームページを利用して公表している。

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 受入れ事業の実施状況

(1) 年間の稼働数

目標 140 万人程度

【 月別利用団体数、稼働数 】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	938	1,201	1,081	1,464	1,842	1,134	1,011	932	697	730	810	1,317	13,157
稼働数	164,461	193,008	179,127	163,754	204,886	125,683	116,636	62,504	62,185	67,299	66,699	101,290	1,507,532

【 施設別利用団体数、稼働数 】

	大雪	岩手山	磐梯	赤城	能登	乗鞍	中央	淡路	三瓶	江田島	大洲	阿蘇	沖縄	合計
団体数	681	876	1,054	922	690	567	1,541	704	887	1,330	2,328	1,049	528	13,157
稼働数	106,119	102,549	144,532	113,789	93,826	100,781	136,348	141,666	111,259	122,346	132,267	140,220	61,830	1,507,532

(2) 新規利用団体受入れに対する取組状況

新規利用団体の利用実績

総利用団体 13,157 のうち 4,213 団体が新規利用であり、その割合は 32.02% である。

新規利用団体確保のための広報実績

ア ホームページを用いた広報の推進

従来の情報発信を中心とした周知型のホームページから双方向型のホームページへの改良等を行い、施設に対する意見の聴取や掲示板の活用などを通じて新規利用の拡大を図った。

イ リーフレット、パンフレット等の更新及び配布方法の改善

利用対象別（高校生用、大学生用等）のリーフレットや利用時期・活動時期に特化したパンフレットなどを新規に作成し、併せてその対象へ直接配布するなど配布方法の改善もを行い、新規利用の拡大を図った。

ウ 利用促進月間（期間）の設定及び広報

施設において利用促進期間（月間）を設定し、職員が直接関係機関を訪れるなど積極的な広報を行った。

エ マスコミを活用した広報の実施

地元新聞社等の取材に積極的に応じ、青年の家の概要、主催事業、受入れ事業、活動プログラムの一層の周知を図るための広報を行った。

オ 全国規模の生涯学習関係催事への出展等

平成 13 年 10 月に実施された第 13 回生涯学習フェスティバル（まなびピア山形 2001）に出展し、併せて広報資料の配布を行うなど、新規利用団体の確保のための広報を行った。

カ 地域催事を活用した広報の実施

通常の施設開放事業（主催事業）に加え、地域の催しに「出前青年の家」として積極的に参加し、青年の家の存在の周知と新規利用の拡大を図った。

キ その他

利用に当たっての具体的な「モデルプラン」を作成し、関係機関を直接訪問・説明を行い、新規利用団体の拡大を図った。

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 受入れ事業の実施状況

(3) 指導・助言に対する満足度

事前・利用中の指導・助言の実施状況

ア 利用に関する資料等の事前配付

「利用の手引き」、「プログラム集」、「オリエンテーション用 CD-ROM」を作成し事前に配付することにより、詳細な利用相談、適切な指導助言を行った。

イ 事前打合せ・事前指導等の充実

事前打合せ、事前指導、活動前の打合せ、活動後の打合せを実施し、活動のねらいや状況の確認を行い、研修成果が上がるよう支援を行った。また、以前から危険を伴う活動（登山、スキー等）を実施する際には事前（実地）踏査を行わせているが、これに加えて活動直前に気象情報を提供するなど安全確保に万全を期した。

ウ 利用者の活動プログラムのニーズへの対応

利用者のニーズに応えるために活動プログラムの改善や説明資料の見直しを実施し、併せて外部研修指導員を確保するなど支援体制の充実を図った。

エ 代替プログラムの提供及び支援体制

気象条件等により野外での活動が不可能になった場合の代替プログラムの提供や、これに伴う指導・助言について積極的に支援を行った。

指導助言に対する満足度

目標：満足度 70%以上

ア「利用相談（事前打合せ）について、指導・助言は役に立ちましたか。」

	とても役に立った	役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった	合計
回答数	2,486	2,782	65	2	5,335
割合	46.6%	52.14%	1.22%	0.04%	100%
満足度	98.74%				

イ「実施した研修について、指導・助言は役に立ちましたか。」

	とても役に立った	役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった	合計
回答数	2,301	2,487	63	1	4,852
割合	47.42%	51.26%	1.3%	0.02%	100%
満足度	98.68%				

ウ「ア及びイの合計」

	とても役に立った	役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった	合 計
回 答 数	4,787	5,269	128	3	10,187
割 合	46.99%	51.72%	1.26%	0.03%	100%
満 足 度	98.72%				

(4) アンケート調査による利用者の満足度

目標：満足度 70%以上

「今回青年の家を利用して良かったと思いますか。」

	とても良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった	合 計
回 答 数	4,002	1,931	36	7	5,976
割 合	66.97%	32.31%	0.6%	0.12%	100%
満 足 度	99.28%				

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 受入れ事業の実施状況

(5) 利用者サービス向上のための職員に対する研修の計画的な実施状況

所内研修の実施状況（括弧内は延べ回数及び述べ参加人数を表す。）

- ア 接遇研修（4回、101人）
- イ 救命救急研修（6回、110人）
- ウ 防災研修（17回、443人）
- エ 活動の安全に関する研修（10回、172人）
- オ 情報化に関する研修（4回、37人）
- カ 職員の意識改革に関する研修（9回、222人）
- キ 活動プログラム習得研修（16回、184人）
- ク 新任職員に対する研修（9回、53人）
- ケ その他の研修（4回、90人） 合計 79回、1,412人を対象に実施。

所外研修への積極的な派遣（括弧内は延べ回数及び述べ派遣人数を表す。）

- ア 野外教育に関する研修（17回、45人）
- イ ボランティアに関する研修（1回、2人）
- ウ 情報化等に関する研修（3回、4人）
- エ 国際性の涵養に関する研修（8回、26人）
- オ 施設職員としての資質向上を図る研修（20回、91人）
- カ 安全管理・健康管理に関する研修（16回、22人）
- キ 教養・啓発に関する研修（37回、88人）
- ク 実務研修（18回、58人）
- ケ 接遇に関する研修（5回、8人）
- コ その他の研修（6回、10人） 合計 131回、354人を派遣。

利用団体代表者アンケート結果

【利用相談担当者の対応はいかがでしたか。】において99.07%が良かった又はとても良かった。

【施設職員の対応や指導はいかがでしたか。】において99.3%が良かった又はとても良かった、との結果であった。

【職員等についてお気づきの点がありましたらお書きください。（自由記述）】においては次のような記述があった。

ア 職員などの対応・指導に対する肯定的な記述

「対応が良かった。」、「申し込み時からとても親切である。」、「病気の人に対する対応が早くて安心した。」、「丁寧な指導をありがとうございました。」、「とても親切で、マナーが良く感じました。」、「職員の方々にいろいろと助言や配慮していただいた。」、「日毎に変わ

るであろう利用者へのあたたかい気配りに敬服いたします。」「親切、あいさつの仕方、報告事項の簡素化、満足です。又、食堂の方の“いらっしゃいませ”ありがたくいただきました。」「何度もご相談にのっていただき、有意義な活動を企画、実行できました。ありがとうございました。」「少人数で効率よく運営していると思います。」「(原文のまま)など

イ 改善・検討を求める記述

「施設利用に当たっての、相談や指導が職員によって違う。また、打合せでもう一度最初から説明しなければならないことから担当職員は一人にしてほしい。無理な場合は引継を十分に。」「利用者に優しすぎる。」「説明が丁寧すぎた。」「このような施設のよさは、程よい規則があるからだと思うので、何でも強制ではありませんがという妙な団体尊重はいかがなものか?と思いました。(以前の厳しい規則も好ましく思っていました)」「年々規律が緩んでいるので、宿泊教育施設として厳しく指導してほしい。」「(原文のまま)など。

なお、利用者からの改善・検討を求める記述については、事実・現状を確認し、利用者のニーズ等を分析して改善等について早急に取り組んでいる。

(6) 利用団体の活動支援のための人材等の確保及び資質向上のための研修実施状況

人材確保への取組実績

- ア 設置県内の高等学校・大学等に対してボランティアの募集を実施し、人材の確保を図った。
- イ 外部研修指導員登録要項を整備し、人材の更なる確保を図った。
- ウ 地域に存在する登山指導者(山岳会会員)やスキー指導者(バッジ保有者)などに対して外部研修指導員としての登録を依頼し、より高い技能を持った人材の確保を図った。
- エ ボランティア養成講座修了者のうち、高い資質や技能・モチベーションを持った人材の確保を図った。

研修実施状況

- ア 各施設でボランティア及び外部研修指導員のスキルアップを図る研修を実施した。これに加えて、各施設において実施した主催事業の指導・運営補助並びに企画及び運営を通して資質の向上を図った。
- イ ボランティア集会(指導系職員を交えた意見交換会)などを実施し、ボランティアの在り方などについて討議等を行い資質の向上を図った。
- ウ 活動プログラム習得のための研修にボランティアや外部研修指導員を参加させ、資質の向上を図った。

主催事業参加者アンケートの結果

【事業の内容等について、担当職員の対応や指導はいかがでしたか。】において96.74%が良い又はとても良い。

【職員などの対応・指導等について、施設職員の対応や指導はいかがでしたか。】において97.52%が良い又はとても良い、との結果であった。

このアンケートの結果には、参加者がボランティア・外部研修指導員とも施設側の職員として認め、対応等について上記の評価をしているものと了解している。

更に研修の充実を図り、現場での経験を生かしながらのボランティアや外部研修指導員の資質向上等について検討を推進する必要がある。

別添資料 13

国民に対して提供するサービスその他の業務への質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 青年教育指導者研修の実施状況

(1) 青年団体指導者、施設職員等を対象にした研修実施状況

青年教育の中心的な拠点として、青年教育に携わる指導者の資質向上を目的とした専門性の高い研修事業を、全国又はブロック規模で次のとおり実施した。

【 対象者別分類 】

対 象 者	事 業 数
青少年教育施設職員	12
青少年団体等の青少年教育指導者	10
教員（教職を志す学生等を含む）	8
社会教育実習生	2
青少年教育施設職員及び青少年団体等の青少年教育指導者	2
青少年団体等の青少年指導者及び教員	5
青少年教育施設職員、青少年団体等の青少年教育指導者及び教員	1
計	40

【 事業内容別 】

事 業 内 容	事 業 数
自然体験（野外活動）	12
生涯スポーツ（野外活動を除く）	4
社会教育（特に青少年教育）の理論と実際	5
環境教育	2
集団宿泊活動の教育的意義等の理解	4
施設運営についての研究協議	12
自然体験（野外活動）及び社会教育（特に青少年教育）の理論と実際	1
計	40

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
大 雪	青少年教育施設 職員研修会	継 続	北海道内青年の家等青少年教育施設の指導系の職員が一堂に会し、青少年教育の現状や今日の課題について研究協議を深め、施設職員としての資質の向上と相互の交流を図る。	北海道内青少年教育施設職員	9月26日 ～28日	29人 / 100%	国立日高少年自然の家 北海道青年の家等連絡協議会
	利用団体担当者 セミナー	継 続	青年の家の受入れシステムや利用方法、施設の教育機能についての理解を図るとともに、クラフトや登山・ハイキングの事前実技研修を通して実際の指導に役立てる。	利用団体担当者 学校の宿泊研修担当教員 青少年教育指導者及び担当者	一期 4月18日 ～20日	28人 / -	
					二期 5月30日 ～1日	29人 / -	
					三期 6月20日 ～22日	18人 / -	
ゆーすびあ野外活動 指導者セミナー	継 続	十勝岳連峰の自然を舞台に野外活動のプログラミングのノウハウとその実施方法について実技を通して学び、野外活動の推進に資する機会とする。	教員・野外教育指導者及び指導者を 目指す人	7月6日 ～8日	15人 / 100%		
岩 手 山	岩手県内青少年 集団宿泊教育施設 職員合同研究会	継 続	岩手県内の青少年集団宿泊教育施設が当面する諸問題について共通理解を深めるとともに、今後の施設運営の充実と発展の方策について研究協議する。	岩手県内の青少年教育施設関係職員	10月23日 ～24日	56人 / 100%	岩手県内青少年集団宿泊教育施設連絡協議会
岩 手 山 磐 梯	東北地区青年の家職員 研修会	継 続	青年の豊かな人間性の育成を目指して、青年教育施設の直面する諸課題について研究協議を行うとともに、施設間相互の連携を深める。	東北地区青年教育施設職員	11月28日 ～30日	24人 / 100%	国立磐梯、岩手山青年の家 東北地区青年の家協議会
磐 梯	自然体験活動担当教員 講習会	継 続	学校教育における自然体験活動の一層の充実を図るため、自然体験活動の指導内容、実施上の配慮等について研究討議・情報交換を行い、自然体験活動担当教員の資質の向上を図る。	東日本24都道府県の小・中学校教員	10月2日 ～5日	67人 / -	文部科学省 独立行政法人 教員研修センター 国立青年の家本部
赤 城	公立青少年教育施設 職員研究協議会	継 続	関東甲信越静地区青年の家職員を対象に、事業及び利用の活性化を図るため、特色ある実技研修、また、相互に情報交換を行うことにより、これからの青年の家の運営や事業のあり方を考える。	関東甲信越静地区青年の家等の職員及び関係者	11月15日 ～16日	65人 / -	関東甲信越静地区青年の家協議会

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催	
赤 城	アウトドアの達人に 学ぶ ～ネイチャー シェアリング～ ～グループワーク～ ～ディープ エコロジー～ ～センスオブ ワンダー～ ～スノー キャンピング～	新 規	野外での活動について、より安全で、自然との共存した活動ができることを目的とし、更に自己と自然を認識する技術を高め、野外指導者としての資質向上を図る。	高校生～社会人	ネイチャー シェアリング 9月 8日 ～ 9日 グループワーク 10月13日 ～ 14日 ディープ エコロジー 12月15日 ～ 16日 センスオブ ワンダー 1月19日 ～ 20日 スノー キャンピング 2月 9日 ～ 11日	25人 / 91% 17人 / 100% 12人 / 100% 14人 / 100% 14人 / -		
	総合的な学習の時間 研究会	継 続	平成15年より本格的に実施される高等学校での「総合的な学習の時間」に係る具体的な指導計画及び学習活動について、高等学校教員、教育行政職員及び青少年教育施設職員が先進的な実践例等をもとに研究、協議を行う。	高等学校教員 教育行政職員 青少年教育施設 職員	1月25日	82人 / 100%		
	能 登	集まれ！ 教職員を志す青年	継 続	教職を志す青年が、野外活動を通じて、小・中学生とのふれあいを深め、子どもの考えや行動を理解するとともに、教師になる資質を高める。	教職を志す青年	9月19日 ～ 21日	18人 / 100%	
	能 登	野外教育企画担当者 セミナー (広報研修)	継 続	野外教育に関わる民間教育事業者との連携のもと、野外教育の企画等に携わる専門指導者を養成する事業を実施することにより、専門的能力を持った指導者を確保し、わが国における野外教育の質的向上を図る。	アクティビティデ ザイン研修を終了 ないしは終了見込 みの方	2月 8日 ～ 11日	33人 / -	NPO法人 国際自然大学校
	能 乗 登 鞍	青少年教育施設 職員研修	継 続	公立青少年教育施設職員が一堂に会し、研究協議・情報交換を行い、施設職員としての資質の向上を図る。	青少年教育施設 職員及び相当職員	11月13日 ～ 15日	30人 / 100%	国立能登青年の家 国立乗鞍青年の家

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
乗 鞍	生涯スポーツ スキー指導者講習会	継 続	生涯スポーツとしてスキーを普及させる立場にある指導者が先進的な知識・技術及び態度を学び、指導者としての資質の向上を図る。また各地の情報を交換し、生涯スポーツの充実・発展を図る。	スキー指導者を志す者及び指導的立場にある者	1月24日 ～27日	103人 / 96%	(財)全日本スキー連盟
	自然体験指導者研修会 ～夏の乗鞍～ ～冬の乗鞍～	継 続	乗鞍青年の家利用団体指導者に対し、宿泊研修をより効果的に行うための学習指導の在り方を研究し、団体間のプログラムの調整を行う。	中学校・高等学校 ・大学・教育委員会指導者	夏の乗鞍 5月11日 ～12日 冬の乗鞍 11月30日 ～ 12月 1日	54人 / - 44人 / 97%	
	野外教育企画担当者 セミナー 「プログラム デザイン研修」	継 続	野外教育の企画等に携わる専門指導者を養成するための統一的な基準の下に研修事業を実施することにより、専門的な能力を持った指導者を確保し、わが国における野外教育の資的向上を図る。	アクティビティデザイン研修修了者及び本年度修了予定者	12月 4日 ～ 7日	23人 / 100%	NPO法人 国際自然大学校
中 央	社会教育・社会体育 実習生研修	継 続	社会教育の志望者が、現場での理論や実技等の幅広い学習を通して、社会教育の技能の向上と意識の涵養を図る。	社会教育施設職員等志望者	随 時	14人 / -	
	全国青少年教育施設 職員フォーラム	継 続	青少年教育施設における効果的な広報の視点・方法について実践的な研修を行い、これからの青少年教育施設の改善、充実に資する。	青少年教育施設等の職員	1月22日 ～25日	26人 / 94%	(社)全国青年の家協議会
	自然体験学習指導者 養成講座	継 続	教員・社会教育関係者と志望者が野外文化教育の理論と実技を学び、学校教育や地域の自然体験学習等に役立てる	青少年指導者	8月18日 ～22日	81人 / -	(社)青少年交友協会野外文化研究所
	野外教育企画担当者 セミナー (マネジメント研修)	継 続	国立青少年教育施設において、野外教育に関する民間事業者との連携のもとに、野外教育の企画等に携わる専門指導者を養成する事業を実施することにより、専門的な能力を持った指導者を確保し、我が国における野外教育の質的向上を図る。	野外教育指導者	1月16日 ～19日	33人 / -	NPO法人 国際自然大学校

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
淡 路	国公立青年教育施設 職員研修会	継 続	施設職員にとって必要な知識・技術等の研修や情報交換をとおして、施設職員の資質向上を図るとともに、施設相互の連携を深める。	国公立青年教育 施設職員	2月14日 ～15日	31人 / 100%	
	野外教育企画担当者 セミナー	継 続	野外教育の企画等に携わる専門指導者を養成するための統一的な基準の下に研修事業を実施することにより専門能力を持った指導者を確保し、我が国における野外教育の質的向上を図る。	アクティビティデザイン研修を終了 ないしは終了見込みの者	3月 7日 ～10日	38人 / 97%	NPO法人 国際自然大学校
	青少年育成指導者 セミナー	継 続	地域における青少年活動の推進のため、青少年育成事業の企画・運営に必要な専門的知識・技術を習得するとともに研修をとおして、青少年指導者の資質向上を図る。	青少年指導者	11月23日 ～25日	30人 / 100%	
三 瓶	社会教育実習	継 続	関係大学との協力により、教育課程の一環として青少年教育施設で、教育実習や体験活動を実施する。青少年教育及びその施設の意義・役割の理解を深めるとともに指導者に必要な知識・技能を学び、単位認定を行う。	大学生	6月30日 ～ 10月14日	16人 / 100%	島根大学教育学部 鹿屋体育大学
江 田 島	西日本国立青少年 教育施設職員研修	継 続	西日本地区国立青少年教育施設職員の資質向上と、専門的な知識・技能の向上を図り、併せて施設間の交流と連携に資する。	西日本国立青少年 教育施設職員等	11月20日 ～22日	39人 / 100%	
	中国・四国地区青年 教育関係施設研修	継 続	青年教育関係施設に対して期待されている教育研修機能を高めるため、自然体験活動の指導内容、実践上の配慮、施設の利用方法等について研究協議・情報交換を行い、資質向上を図る。	中国・四国地区 青年教育関係施設 職員等			中四国地区青年の 家連絡協議会 国立大洲、三瓶青年の家
	自然体験活動担当教員 講習会 (西日本ブロック)	継 続	学校教育における自然体験活動の一層の充実を図るため、自然体験活動の指導内容、実践上の配慮、施設の利用方法等について研究協議・情報交換を行い、自然体験活動担当教員の資質向上を図る。	小学校・中学校等の 自然体験活動担 当者自然体験活動 行政担当者	10月16日 ～19日	62人 / 100%	文部科学省 独立行政法人 教員研修センター 国立青年の家

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
江 田 島	キャンプ指導者 養成講座	継 続	野外活動に関心を持つ青年が、必要な知識、技術について研修し、指導力、実践力の向上を図る。	大学生、働く青年等	第一回 5月19日 ～20日 第二回 6月16日 ～17日 第三回 6月30日 ～ 7月 1日	107人 / 100%	広島県キャンプ協会
大 洲	集団宿泊指導担当者 講習会	継 続	施設の機能や活動プログラムについて理解を深め、集団宿泊体験の在り方及び大洲青年の家をフィールドとした自然体験活動の効果的な指導法について学習する。	各小・中学校・高等学校・高等専門学校等の集団宿泊指導担当者	11月29日 ～30日	79人 / 100%	
	環境教育企画担当者 セミナー （春）	継 続	環境教育の企画・運営に必要な知識や技術を学び、「総合的な学習の時間」に対応した環境学習プログラムの在り方を考える。	環境教育に興味のある教職員、グループ、サークル等で活動されている方	6月 8日 ～10日	33人 / 87%	
	環境教育企画担当者 セミナー （秋）	継 続	環境教育の企画・運営に必要な知識や技術を学び、「総合的な学習の時間」に対応した環境学習プログラムの在り方を考える。	環境教育に興味のある教職員、グループ、サークル等で活動されている方	10月26日 ～28日	19人 / 93%	
	カヌー DE 肱川 第一回	継 続	カヌースポーツ指導者としての必要な知識・技術及び、指導者としての資質の向上を図る。	カヌースポーツ指導者を志す者及びカヌーの指導的立場にある者。	5月 3日 ～ 4日	23人 / -	(社)日本カヌー連盟
	カヌー DE 肱川 第二回	継 続	カヌースポーツ指導者としての必要な知識・技術及び、指導者としての資質の向上を図る。	カヌースポーツ指導者を志す者及びカヌーの指導的立場にある者。	8月11日 ～12日	26人 / 100%	(社)日本カヌー連盟
	教育相談研修会	新 規	心理療法の実習等とおして、様々な要因から悩んでいる児童・生徒の青年の心理に、より効果的に近づく研修を行い、養護教諭の資質の向上を図る。	養護教諭	2月22日 ～23日	31人 / 100%	

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
阿 蘇	九州地区青少年教育 （施設）関係職員研修	継 続	青少年の健全な育成のために必要な専門的知識及び指導技術等について研修することにより、関係職員としての資質向上を図るとともに、参加者相互の連携を深める。	青少年教育施設職員、青少年団体指導者、県市町村青少年教育関係職員	12月 5日 ～ 6日	78人 / 100%	
	利用団体担当者研修	継 続	利用団体の指導担当者を対象に、次年度の利用期日の調整を図るとともに、当青年の家の教育機能や活動プログラムの紹介及びその利用の仕方について研修を深め、集団宿泊研修の教育的効果を高める。	次年度の集団宿泊利用希望団体の担当者 （高校・企業・大学）	11月 8日 ～ 9日	76人 / 100%	九州各県・指定都市教育委員会
沖 縄	マリンスポーツ 指導者研修会	新 規	マリンスポーツや水辺活動を体験し、その特性と安全な活用方法について理解を深める。また、有効な指導方法及び環境との関わりについて認識を深める。	マリンスポーツ関係者等	11月23日 ～ 25日	45人 / 100%	（財）社会スポーツセンター
	いちゃりばちょうでー INとかしき	継 続	各地域の青年が研修を通して、互いのコミュニケーションを深め、ネットワーク作りを促進するとともに、地域の活性化を図る。	地域青年団、学生、社会人	2月22日 ～ 24日	54人 / 86%	沖縄県青少年団協議会 沖縄タイムス社
	野外教育指導者等 フォーラム	継 続	青少年教育施設等職員や野外教育関係者等にとって必要な知識・技術等についての研修や情報交換を行い、野外教育指導者としての資質向上と関係機関との連携を図る。	青少年教育施設職員、社会教育行政担当者、野外教育指導者等	12月14日 ～ 16日	51人 / 96%	県教育委員会 沖縄地区青少年教育施設連絡協議会

青年団体指導者、施設職員等を対象にした研修のアンケート調査による参加者の満足度

目標：満足度 80%以上

アンケート質問事項：この事業に参加していかがでしたか。

選択項目	とても有意義であった	有意義であった	あまり有意義でなかった	有意義でなかった
割合	58.3 %	39.9 %	1.8 %	0 %
満足度	98.2 %			

別添資料 1 4

国民に対して提供するサービスその他の業務への質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 青年教育指導者研修の実施状況

(2) ボランティア養成研修実施状況

外部研修指導員やボランティアの養成・資質向上・ネットワーク構築を目的とした研修事業をブロック規模で次のとおり 25 事業実施した。

施設ボランティア養成事業		19 事業
養成事業		8 事業
資質向上事業		8 事業
ネットワーク構築事業		3 事業

その他のボランティア養成事業		6 事業
ボランティア入門事業		4 事業
福祉ボランティア養成事業		2 事業

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
大 雪	大雪ボランティア セミナー	継 続	青少年教育施設におけるボランティア活動についての基本的な考え方や知識についての理解を深めるとともに、実習や演習を通して実践のための資質を身につける機会とする。	高校生・学生	5月26日 ～27日	61人 / -	
岩 手 山	ボランティア スタッフセミナー	継 続	ボランティア活動の基本を理解するとともに、岩手山青年の家のボランティアスタッフとしての活動を通して社会貢献についての意義を学ぶ。	大学生・勤労青年	第一回 5月19日 ～ 2月20日 第二回 2月23日 ～24日	31人 / 100%	
	ハイスクール ボランティア inテンバ-ク	継 続	障害者等との交流を通して、ボランティア活動の必要性を理解するとともにその基本を学ぶ。	高校生	8月11日 ～13日	109人 / 98%	
	新インストラクター セミナー	新 規	指導員及びボランティアとしての役割について理解を深めるとともに、指導者としての資質を高める。	セミナー1 (ボランティア)	セミナー1 6月2日 ～3日	67人 / 97%	
				セミナー2 (登山指導員)	セミナー2 7月15日 ～15日		
				セミナー3 (スキー指導員)	セミナー3 12月20日 ～21日		
岩 手 山 磐 梯	東北地区ユース ボランティアのつどい	新 規	青少年教育施設ボランティアとしての知識・技能を修得するとともに、活動実践等について情報交換を行い、ボランティアとしての資質を高める。	東北地区青少年教育施設ボランティア	11月23日 ～25日	34人 / 100%	国立岩手山・磐梯青年の家 東北地区青年の家協議会、岩手県内集団宿泊教育施設連絡協議会
磐 梯	施設ボランティア セミナー7 ～磐梯ボランティア の誘い～	継 続	様々な体験活動を通して、施設ボランティアとしての資質向上を図るとともに、環境に対する意識を深め、さらに広く社会に貢献できるボランティアとしての意識の高揚を図る。	高校生以上の学生 生徒	第一回 5月12日 ～13日 第二回 7月27日 ～29日	40人 / - 31人 / 93%	

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
赤 城	指導ボランティア 養成研修	新 規	当青年の家及び公立施設ボランティアの中から核となって活動できる人材育成を図るため、指導者としての資質向上を目指す研修を行う。	施設ボランティア 研修終了者で、ボランティア活動を継続して行っている者	12月22日 ～23日	19人 / 100%	
	あかぎボランティア セミナー ～高校生のための 養成研修～ ～大学生、社会人～	継 続	ボランティア活動に必要な基本的知識や野外活動・創作活動等の知識技能を習得させ、施設ボランティアとしての能力を身につける。	高校生	高校生 5月26日 ～27日	43人 / 97%	
				大学生、社会人	大学生、社会人 6月23日 ～24日	56人 / 100%	
能 登	集い語ろうボランティア フォローアップ セミナー	新 規	近隣施設で活躍する施設ボランティアが集い、青少年の野外活動を援助・指導するための方法や理論について実習協議するとともに各施設ボランティア相互の交流を深め、ネットワーク化を図る。	四施設 (乗鞍・立山・ 若狭湾・能登) のボランティア	12月21日 ～23日	2人 / 100%	国立能登青年の家 国立乗鞍青年の家 国立立山少年自然の家 国立若狭湾少年自然の家
	ボランティアスタッフ 入門セミナー	継 続	野外活動の体験を通して、ボランティア活動に必要な知識・技術を理解し、ボランティア活動の意欲を高める。 野外活動の企画の体験を通して、ボランティア活動に必要な知識・技術の向上を図り、ボランティア活動のリーダーとなる資質を高める。	高校生以上	5月11日 ～13日	31人 / -	
	ステップアップ セミナー			高校生以上 (ボランティア経験者)	6月22日 ～24日	14人 / 100%	
乗 鞍	集い語ろうボランティア フォローアップ セミナー	新 規	近隣施設で活躍する施設ボランティアが集い、青少年の野外活動を援助・指導するための方法や理論について実習協議するとともに各施設ボランティア相互の交流を深め、ネットワーク化を図る。	四施設 (乗鞍・立山・ 若狭湾・能登) のボランティア	12月21日 ～23日	4人 / -	国立能登青年の家 国立乗鞍青年の家 国立立山少年自然の家 国立若狭湾少年自然の家

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
乗 鞍	青少年教育施設 指導者養成セミナー	継 続	ボランティアについて、一般的な理解と青少年教育施設における事業展開のあり方の理解を図るとともに、当施設ならではの野外活動や青少年の指導を通して、施設ボランティアを養成する	青年	第一回 6月 8日 ～ 10日	22人 / 100%	高山市教育委員会
					第二回 9月 24日 ～ 29日	29人 / 96%	
					第三回 10月 1日 ～ 6日	15人 / 100%	
					第四回 3月 1日 ～ 3日	13人 / 100%	
中 央	ボランティア講座 <基礎>	継 続	ボランティアの初心者に、ボランティアの精神や基礎的な理論・技能を学習する機会を提供し、社会貢献や自己実現に向けての意欲を高める。	15歳～30歳 (中学生を除く)	5月 3日 ～ 5日	30人 / -	(社)日本青年奉仕協会 (社)静岡県ボランティア協会
	ボランティア講座 <実践> A	継 続	ボランティア講座<基礎>受講者が実際の事業運営に施設ボランティアとして関わることで、ボランティアとしての技能・実践力の向上を図る。	ボランティア講座 <基礎>受講者	A - 1 5月 26日 ～ 27日	11人 / -	
	A - 2 9月 8日 ～ 9日				14人 / 100%		
	A - 3 2月 23日 ～ 24日				10人 / 100%		
	<実践> B	継 続	ボランティア講座<基礎>の受講者が主催事業「青春の旅2001(富士山トレッキング)」に参加することにより、ボランティアとしての技能を修得し、社会貢献や自己実現に向けて意欲を高める。	15歳～30歳 (中学生を除く) ボランティア講座 <基礎>を受講した者	B - 1 6月 9日 ～ 10日	5人 / -	
	B - 2 8月 19日 ～ 20日				4人 / 100%		
<実践> C	継 続	ボランティア講座<基礎>の受講者が当青年の家主催事業「チャレンジ3776m富士登山」事前踏査に参加することにより、ボランティアとしての技能を修得し社会貢献に向けての意欲を高める。	15歳～30歳 (中学生を除く) ボランティア講座 <基礎>を受講した者	C - 1 7月 20日 ～ 22日	4人 / 100%		
C - 2 8月 2日 ～ 4日	4人 / -						

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
中 央	ボランティア フォローアップ研修	新 規	登録ボランティア及びボランティア講座<基礎>受講者が、実際の事業の企画から運営までを主体的に行い、施設ボランティアとしての技能・実践力・活動の質を高める。	登録ボランティア 及びボランティア 講座<実践>受講 者	12月22日 ～23日	15人 / -	
淡 路	高校生のための ボランティア活動 セミナー	継 続	ボランティア活動の基礎的な理論と技術について活動する機会を提供し、高校生の社会参加の推進を図る。	高校生	6月 8日 ～10日	113人 / 95%	
	大学生のための ボランティア活動 セミナー	継 続	ボランティア活動の理論と技術について学習する機会を提供し、大学生のボランティア活動の推進を図る。	大学生	9月22日 ～24日	30人 / 96%	
	教員のための ボランティア活動 セミナー	継 続	学校におけるボランティア学習の推進を図るためボランティア学習の理論や実践事例について学習する機会を提供する。	教員及び教員を志 す者	12月 8日 ～ 9日	36人 / 100%	
三 瓶	ボランティア講座	継 続	自己確立期にある高校生及び、大学生を対象として、地域社会に積極的に関わる態度や心を培うため、体験学習などをとおしてボランティア活動に関する基礎的な知識や取り組み態度を育成する。	高校生、大学生、 地域内障害者とその 関係者	8月19日 ～22日	71人 / 100%	島根県教育委員会 島根県立生涯学習 推進センター
	社会教育施設 ボランティア養成講座	継 続	社会教育施設ボランティアの意義・役割・活動等を体験的に学習しボランティア活動に必要な知識・技能を習得すると共に、ボランティア活動への参加を促す。	大学院生、大学生、 短大生	6月15日 ～25日	30人 / 96%	島根大学教育学部 島根県立青少年の 家(サンレイク)
江田島	青年の社会参加活動 促進事業 「青年ボランティア 研修会」	継 続	国立青年の家で施設ボランティアとして活動を実践する青年を育成し、継続的な活動の場を提供する。さらに全国の国立青少年施設の事業に派遣し、報告会でその成果を共有する。	学生 (高校生を除く) 働く青年	第1回 6月 2日 ～ 3日 第二回 9月15日 ～16日 第三回 2月23日 ～24日	5人 / 100% 19人 / 100% 21人 / -	

施設名	事業名	新規・継続	趣 旨	対 象	期日（期間）	参加人数 / 満足度	共 催
阿 蘇	ボランティアリーダー九州サミット	継 続	各地域や青少年教育施設及び学校等で活躍するボランティアリーダーが一堂に会し、研修や情報交換を実施する中で、ネットワークを構築するとともにお互いのより一層の資質向上を図る	青年及び成人	1月26日 ～27日	50人 / 100%	
	学習ボランティア講座	継 続	青少年教育施設等において、ボランティア活動を行うために必要な知識・技術を習得する。さらに、個人が持っている資格・特技・専門的知識等を生かすための活動の場及び機会を提供する	高校生以上の学生 青年、成人	5月 3日 ～ 6日	69人 / -	
沖 縄	ボランティア活動セミナー	継 続	ボランティア活動に必要な知識・技術を学び、自ら実践する態度を育成し、社会の一員としてのボランティア活動の支援に資する。	学生・社会人	2月 8日 ～10日	30人 / 100%	沖縄県教育委員会

ボランティア養成研修のアンケート調査による参加者の満足度

目標：満足度 80%以上

アンケート質問事項：この事業に参加していかがでしたか。

選択項目	とても有意義であった	有意義であった	あまり有意義でなかった	有意義でなかった
割合	62.5 %	35.8 %	1.7 %	0 %
満足度	98.3 %			

別添資料 1 5

その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 施設・設備の整備状況

(1) 研修・宿泊施設等の新設、改修、増設計画等

施設整備の整備計画

【施設整備費補助金事業】

施設名	工事名称	工事金額(千円)
大雪	屋内プール改修工事	117,695
赤城	キャンプ場管理棟新築工事	279,086
能登	食堂棟等改修工事	331,183
阿蘇	キャンプ場管理棟新築工事	111,752
施設整備費補助金事業費計		839,716

【施設整備資金貸付金事業】

施設名	工事名称	工事金額(千円)
磐梯	宿泊棟内部改修工事	37,031
赤城	浴室棟新築工事	267,316
沖縄	多目的グラウンド整備工事	220,091
施設整備資金貸付金事業費計		524,438

運営費交付金工事	工事金額(千円)
各施設での各所修繕費計	245,370

国立青年の家施設整備費総額(+ +)	1,609,524千円
----------------------	-------------

防災、研修の充実、快適な食・住環境等の確保の観点に立った整備の実績

施設名	工事名称	工事内容
大雪	屋内プール改修工事（平成14年7月竣工予定）	シャワー室・更衣室・便所等改修、プール内空調設備更新
	外灯改修工事	絶縁不良、鉄柱の腐朽による外灯改修
岩手山	P C B 照明器具改修工事	P C B 使用の照明器具取替、天井張替改修
磐梯	宿泊棟内部改修工事（平成14年7月竣工予定）	宿泊棟の洗面所・便所改修
	P C B 照明器具改修工事	P C B 使用の照明器具取替
	キャンプ場トイレ改修工事	老朽したキャンプ場トイレ改修
	側溝補修工事	所内道路の側溝の蓋設置
赤城	キャンプ場管理棟新築工事（平成14年7月竣工予定）	キャンプ場センター棟・屋根付広場・機械室新築
	浴室棟新築工事（平成15年3月竣工予定）	浴室棟新築
能登	食堂棟等改修工事	サービス棟（食堂部分）増築、サービス棟内外装、講堂棟・浴室棟内装等全面的な大規模改修
	食堂テーブル・椅子設置	食堂増築に伴いテーブル・椅子設置
	外灯整備工事	自然エネルギー（ソーラー発電式）の外灯設置
乗鞍	第一研修室床修繕工事	老朽化した研修室の床張替
中央	柔剣道場天井改修その他工事	天井吹付けアスベスト除去、腐食し落下危険な高架水槽撤去、壁塗装改修
	富士山資料館整備	富士山資料館整備
	屋外消火栓取替工事	老朽化した消火栓取替
	電話交換機設備更新工事	老朽化した電話交換機設備更新
	キャンプ場法面補修等工事	降雨によるキャンプ場法面崩落、道路陥没の復旧
淡路	P C B 照明器具改修工事	P C B 使用の照明器具取替
	講堂・食堂棟トイレ改修工事	老朽化したトイレ改修
	デマンド監視装置取設工事	電力使用量抑制のためデマンド監視装置設置
三瓶	宿泊棟浴室脱衣室改修工事	老朽した脱衣室改修

江田島	武道館屋根防水改修工事	雨漏れの屋根防水改修
	雨水排水管改修工事	破損した雨水排水管改修
江田島	地震災害復旧修繕工事	芸予地震による路面、排水溝の陥没の復旧
	水泳場コンクリート舗装工事	水泳場に緊急車両が進入、方向転換できるよう舗装
阿蘇	キャンプ場管理棟新築工事	キャンプ場管理棟新築（ソーラー式（太陽熱利用）建物）
	豪雨災害復旧工事	豪雨による災害復旧
沖縄	多目的グランド整備工事（平成14年12月竣工予定）	閑散期における、利用促進と研修充実のため多目的グランド整備
	ボクシング練習施設整備工事	閑散期における、利用促進と研修充実のためボクシング練習施設整備
	ランニングコース整備工事	ボクシング練習場整備に伴いランニングコース整備
	法面切土工事	雨水による崩落防止のため、宿泊棟後方の法面を整備
共通	各所修繕工事	老朽化した施設・設備等の小規模修繕

印を付した工事は、施設整備費補助金、施設整備資金貸付金工事である。

その他

1. 施設についてのアンケートによる意見等を反映した整備実績

施設名	施設についてのアンケートによる意見等を反映した整備
大雪	給排水設備新設
	グラウンドの表土整備
赤城	施設内各所の雨漏改修工事
	宿泊棟内部壁改修
能登	サッシ等建具改修
乗鞍	体育館バドミントン支柱補強
	水飲み場増設
中央	所内の外灯増設
	宿泊棟玄関ドアの開閉不良修理
三瓶	体育館ライン補修
	体育館網戸修理
江田島	研修室（和室）の畳表替え
	浴室棟防カビ処理・クリーニング

2. 施設についてのアンケート結果

食堂の施設・設備はいかがでしたか。

						良い以上		97.09%
とても良い		良い		あまり良くない		良くない		回答数 計
回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	100%
7,758	57.65%	5,309	39.45%	373	2.77%	18	0.13%	13,458

宿泊のための施設・設備はいかがでしたか。

						良い以上		90.85%
とても良い		良い		あまり良くない		良くない		回答数 計
回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	100%
5,711	43.00%	6,354	47.85%	1,074	8.09%	141	1.06%	13,280

入浴のための施設設備はいかがでしたか。

						良い以上		90.88%
とても良い		良い		あまり良くない		良くない		回答数 計
回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	100%
5,656	43.61%	6,132	47.27%	1,061	8.18%	122	0.94%	12,971

【参考】「施設・設備に対する利用者の満足度」について

施設・設備に対する利用者の満足度の調査は、主催事業の各参加者、また受入事業の場合は、各利用団体の代表者一人に最終日にアンケートに記入してもらい、提出されたものを集計した。

別添資料 16

その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 施設・設備の整備状況

(2) 高齢者及び身障者に配慮した施設整備の推進

施設整備の整備計画

【施設整備費補助金事業】(再掲)

施設名	工事名称	工事金額(千円)
大雪	屋内プール改修工事	117,695
赤城	キャンプ場管理棟新築工事	279,086
能登	食堂棟等改修工事	331,183
阿蘇	キャンプ場管理棟新築工事	111,752
施設整備費補助金事業費計		839,716

【施設整備資金貸付金事業】(再掲)

施設名	工事名称	工事金額(千円)
磐梯	宿泊棟内部改修工事	37,031
赤城	浴室棟新築工事	267,316
施設整備資金貸付金事業費計		304,347

高齢者及び身体障害者等に配慮した整備の実績

施設名	工事名称	工事内容
大雪	屋内プール改修工事（平成14年7月竣工予定）	屋内プール改修に伴い階段に手摺設置
岩手山	管理研修棟玄関手摺取設工事	管理研修棟の正面玄関に手摺設置
磐梯	宿泊棟内部改修工事（平成14年7月竣工予定）	宿泊棟内部改修に伴い多目的便所（身障者対応）設置
	本館スロープ手摺補修工事	本館棟スロープの手摺補修
赤城	キャンプ場管理棟新築工事（平成14年7月竣工予定）	キャンプ場センター棟新築に伴いスロープ、多目的便所（身障者対応）設置
	浴室棟新築工事（平成15年3月竣工予定）	浴室棟新築に伴いスロープ、浴槽手摺設置
能登	食堂棟等改修工事	サービス棟改修に伴い広場側にスロープ設置、管理研修棟よりサービス棟、サービス棟より講堂・浴室まで移動するための階段昇降機（車椅子対応）4基設置
中央	食堂棟スロープ新設工事	食堂棟に入る階段にスロープ設置
淡路	講堂・食堂棟便所手摺取設工事	講堂・食堂棟の便所に手摺設置
三瓶	管理棟玄関ホール手摺改修工事	管理棟玄関ホールの手摺基礎等補修
阿蘇	キャンプ場管理棟新築工事	キャンプ場管理棟新築に伴いスロープ、多目的便所（身障者対応）設置、身障者風呂設置、廊下手摺設置

印を付した工事は、施設整備費補助金、施設整備資金貸付金工事である。

その他

1. 施設についてのアンケートによる意見等を反映した整備実績

施設名	施設についてのアンケートによる意見等を反映した整備
大雪	本館・講堂の階段手摺設置
乗鞍	ステンレス浴槽の滑り止め補修

別添資料 17

その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事管理の状況

職員に対する研修の実施実績

ア 各施設においては、以下の研修を実施した。

区 分	実施回数	参加者数
接遇に関する研修	4回	101名
救急救命等研修	6回	110名
防災に関する研修	17回	443名
活動の安全に関する研修	10回	172名
情報化に関する研修	4回	37名
職員の意識改革に関する研修	9回	222名
活動プログラムの習得の研修	16回	184名
新任職員に対する研修	9回	53名
その他の研修	4回	90名

イ 外部機関が実施した研修への参加状況は以下のとおりである。

区 分	参加した研修の数	参加者数
野外教育に関する研修	17回	45名
ボランティアに関する研修	1回	2名
情報化に関する研修	3回	4名
国際性の涵養に関する研修	8回	26名
施設職員としての資質向上を図る研修	20回	91名
安全管理・健康管理に関する研修	16回	22名
教養・啓発に関する研修	37回	88名
実務研修	18回	58名
接遇に関する研修	5回	8名
その他の研修	6回	10名

関係機関等との人事交流の実施実績

ア 平成13年度における人事交流の状況は、以下のとおりである。

(役員を除く。)

国の機関からの交流	地方公共団体との交流	青少年団体等との交流
51名	37名	0名

イ 平成13年度末における他機関からの任用状況は、以下のとおりである。

(役員を除く。)

国の機関	地方公共団体	青少年団体等
123名	81名	3名

新情報ネットワークシステムの導入状況

法人化に伴い、人事異動に関する帳票の処理や職員の履歴の管理について、法人本部と各施設間を結ぶ新情報ネットワークシステムを構築し、導入した。

常勤職員の数

平成13年度末における常勤職員数は、305名である。